

第5回川崎市地域福祉実態調査（令和元年度調査）
結果概要

中原区版

目次

調査の概要	- 1 -
■調査の目的	- 1 -
■調査の設計	- 1 -
■概要を利用するにあたって	- 1 -
1. 回答者の基本属性	- 3 -
2. 『川崎市地域福祉計画』について	- 8 -
3. 近隣地域とその課題について	- 10 -
4. 地域活動やボランティア活動について	- 24 -
5. 保健・福祉に関することについて	- 29 -
6. 東日本大震災後の意識の変化について	- 32 -
7. 今後の地域福祉の推進について	- 36 -
8. 自由回答のまとめ	- 41 -
資料 アンケート調査票	- 59 -

調査の概要

■ 調査の目的

本調査は、川崎市地域福祉計画に基づいて、市民の地域福祉に関する意識を多面的に調査することにより、地域における生活課題を明らかにし、『第6期川崎市地域福祉計画』の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

■ 調査の設計

【調査対象者】

市内在住の20歳以上の男女（外国人を含む）各区900人、全市合計6,300人

【調査時期】

令和元年11月28日～令和元年12月20日

【抽出方法】

住民基本台帳及び外国人登録から無作為抽出

【調査内容】

- ・ 基本属性
- ・ 『川崎市地域福祉計画』について
- ・ 居住地域について
- ・ 地域活動やボランティア活動について
- ・ 保健・福祉に関することについて
- ・ 東日本大震災後の意識の変化について
- ・ 今後の地域福祉の推進について

■ 概要を利用するにあたって

- (1) 図中のnとは、基数となる実数のことである。
- (2) 回答はnを100%として百分率で算出している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- (3) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。

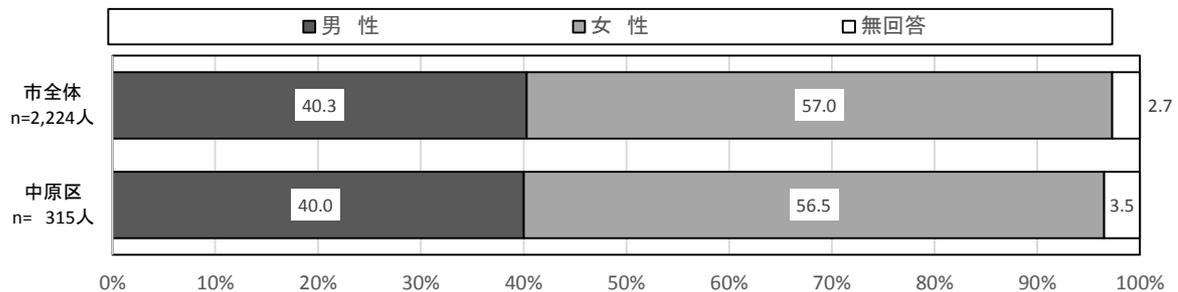
【回収率】

区名	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	不明	全市
配布数（人）	900	900	900	900	900	900	900	-	6,300
有効回収数（人）	278	305	315	293	323	315	368	27	2,224
有効回収率	30.9%	33.9%	35.0%	32.6%	35.9%	35.0%	40.9%	-	35.3%
（参考） 第4回回収率	34.1%	40.4%	36.4%	35.4%	41.8%	34.1%	43.5%	-	37.9%

1. 回答者の基本属性

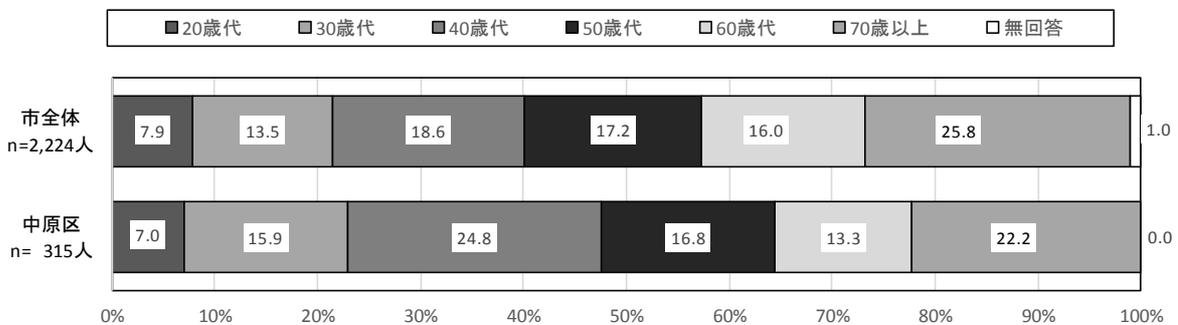
問1 性別を教えてください。(1つに○)

中原区では、男性が40.0%、女性が56.5%となっている。



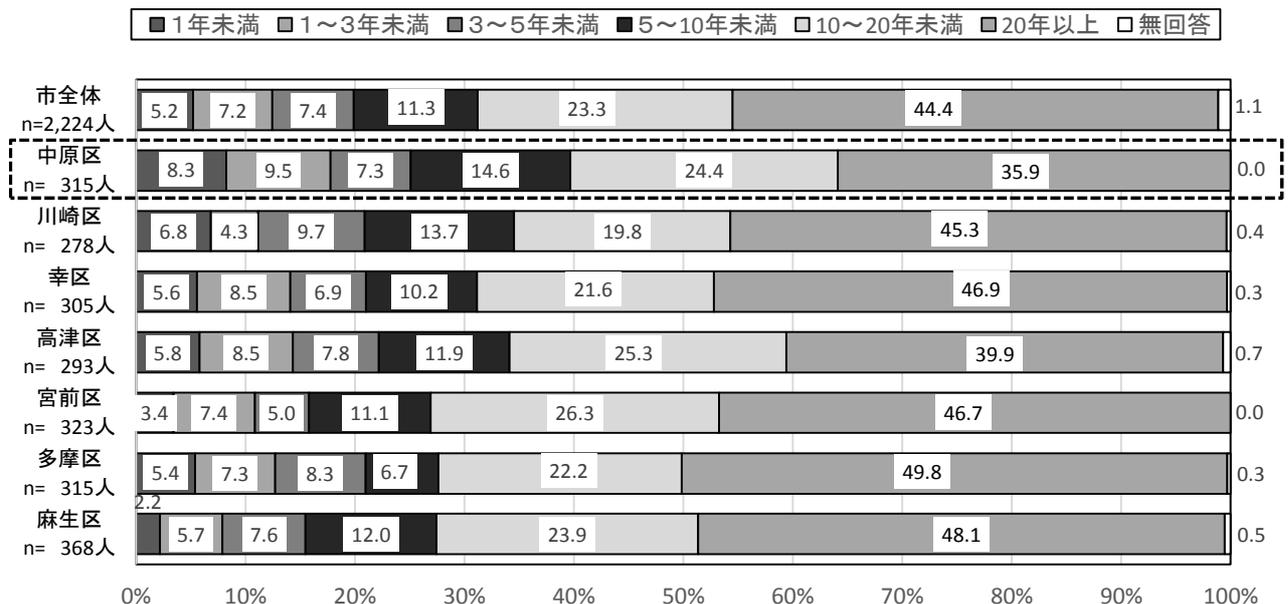
問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに○)

中原区では、40歳代が24.8%で最も高く、次いで70歳以上(22.2%)、50歳代(16.8%)となっている。



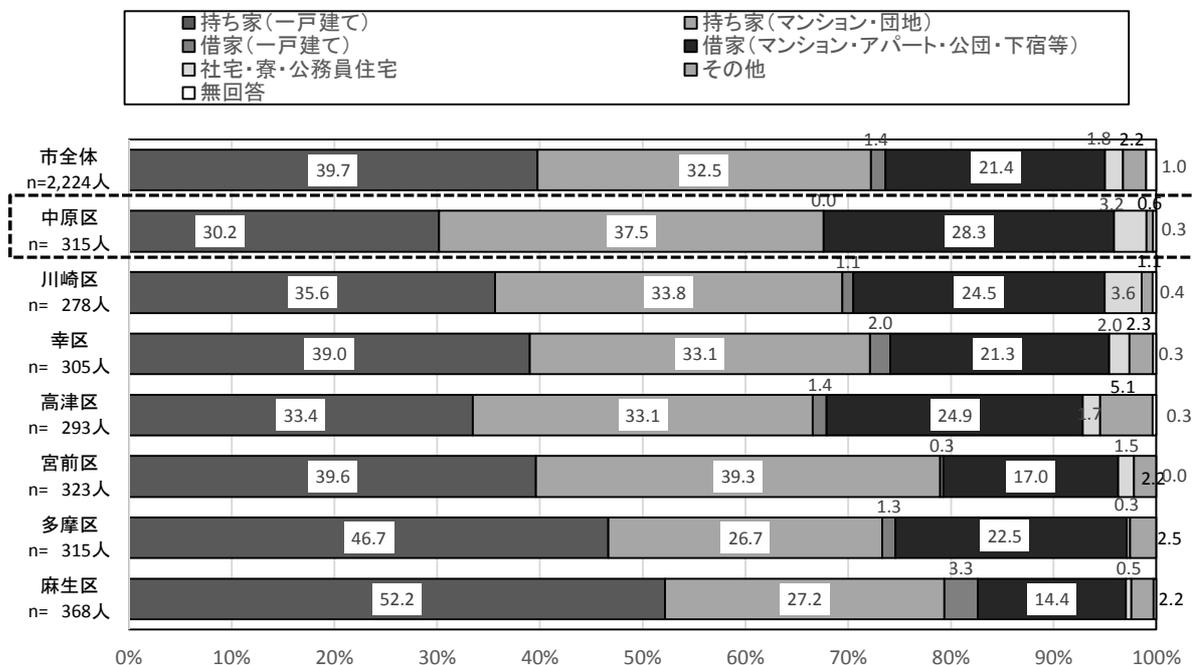
問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに○)

中原区では、20年以上が35.9%で最も高く、次いで10~20年未満(24.4%)、5~10年未満(14.6%)となっている。市内6区と比較すると、10年以上の割合(10~20年未満と20年以上を合わせた割合)が60.3%で、最も低くなっている。



問6 現在お住まいの形態を教えてください。(1つに○)

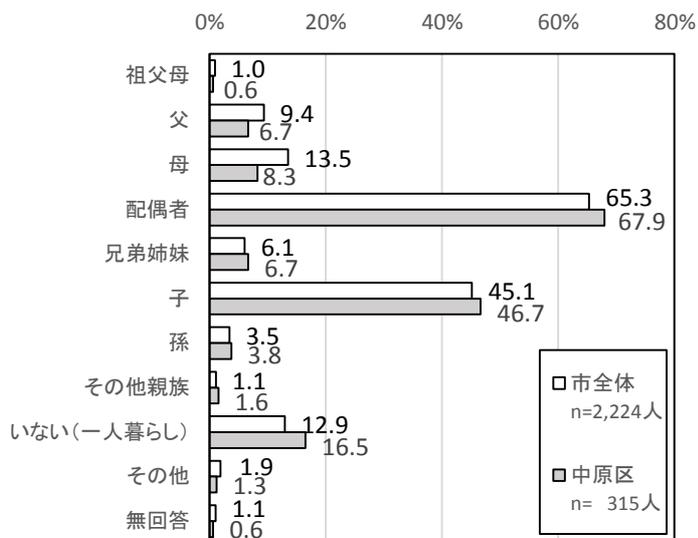
中原区では、持ち家（一戸建て）の割合が30.2%で、市全体（39.7%）を9.5ポイント下回っている。市内6区と比較すると、一戸建てとマンション・団地を合わせた持ち家の割合が67.7%で2番目に低くなっている。



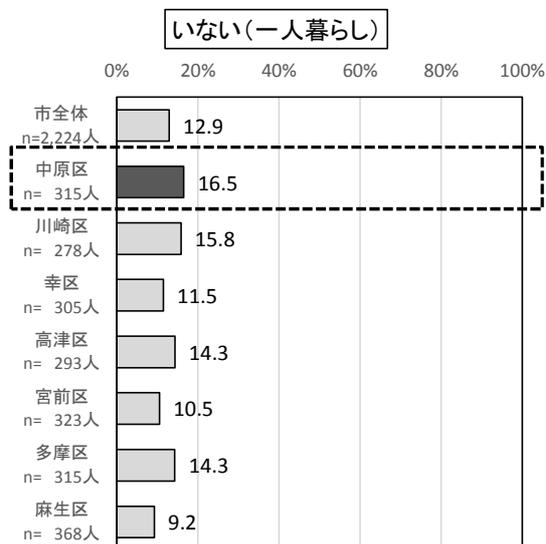
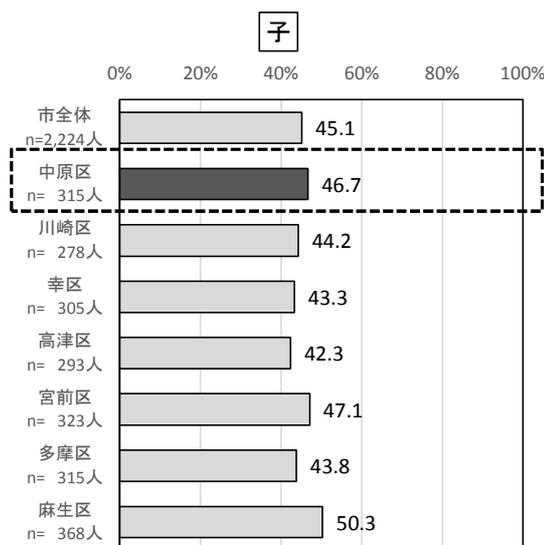
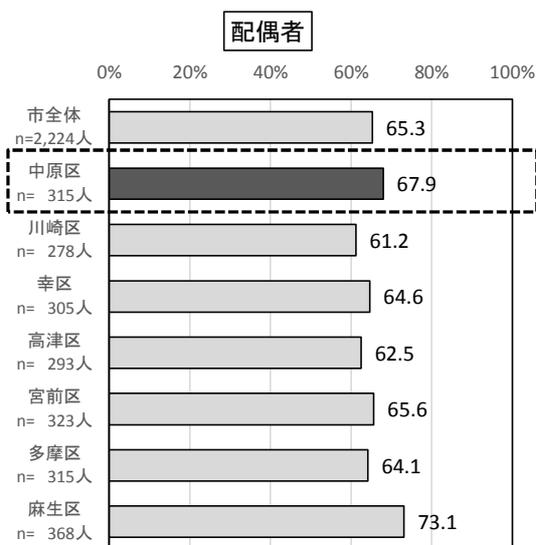
問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

中原区では、「配偶者」が67.9%で市全体(65.3%)を上回っている。

市内6区と比較すると、「配偶者」は67.9%と2番目に高く、「子」は、3番目に高くなっている。また、「いない(一人暮らし)」は16.5%で、最も高くなっている。

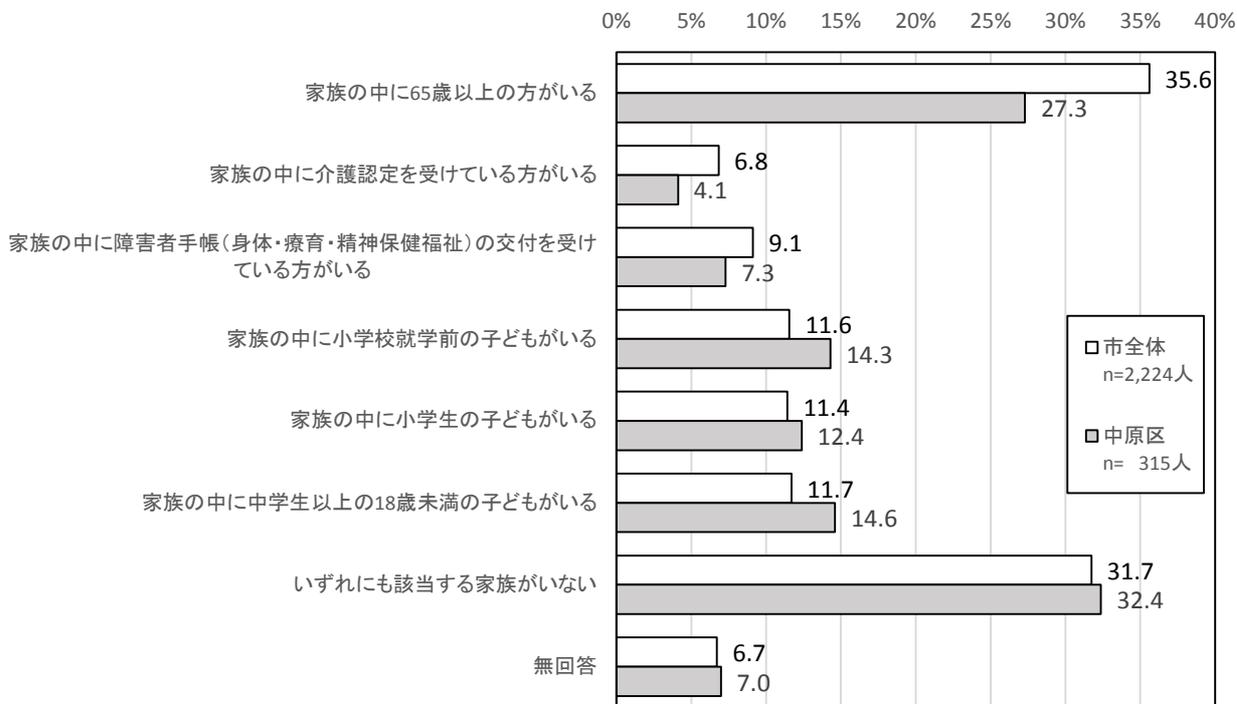


【参考】

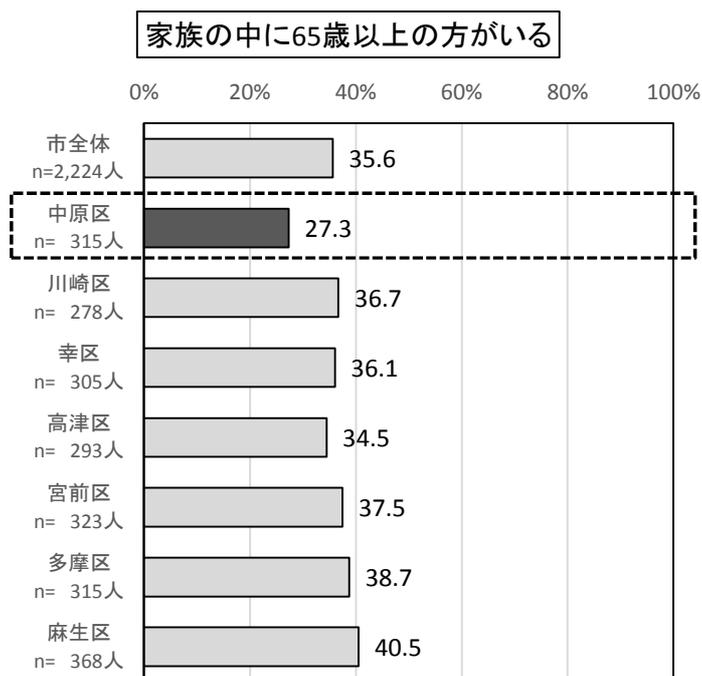


問8 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「家族の中に65歳以上の方がいる」が27.3%で市全体（35.6%）を下回っている。市内6区と比較しても、「家族の中に65歳以上の方がいる」割合は27.3%で最も低くなっている。



【参考】

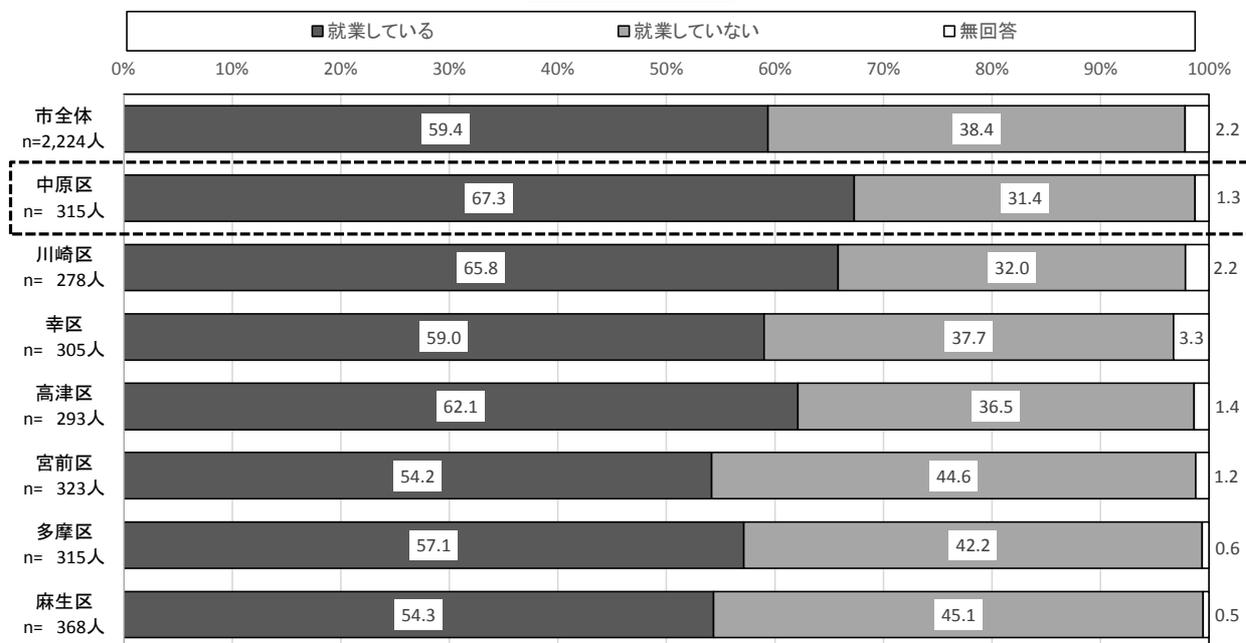


問9 就業の状況はどれに該当しますか。(1つに○)

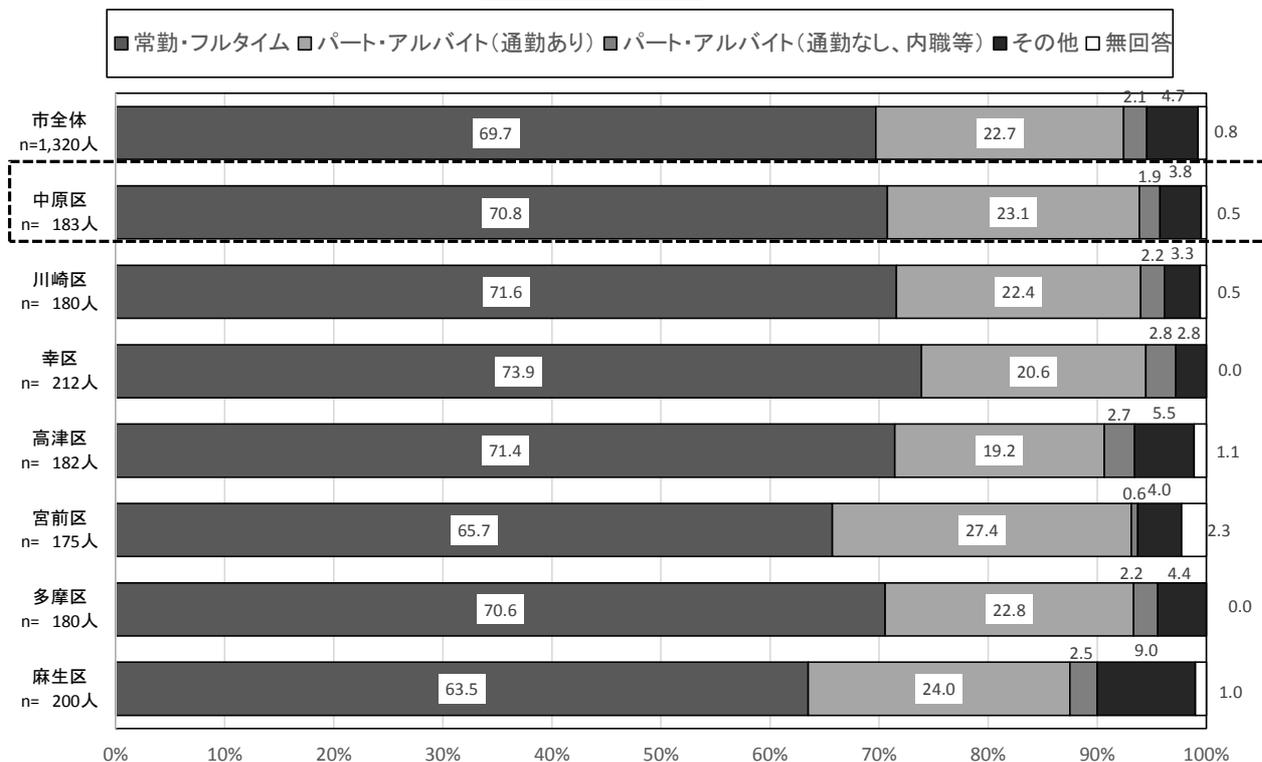
中原区では、就業している割合が67.3%で市全体(59.4%)を上回っている。市内6区と比較すると、就業している割合は最も高くなっている。

市内6区と比較すると、常勤・フルタイムの割合は70.8%で、7区の中で4番目に高くなっている。

ア. 就業状況

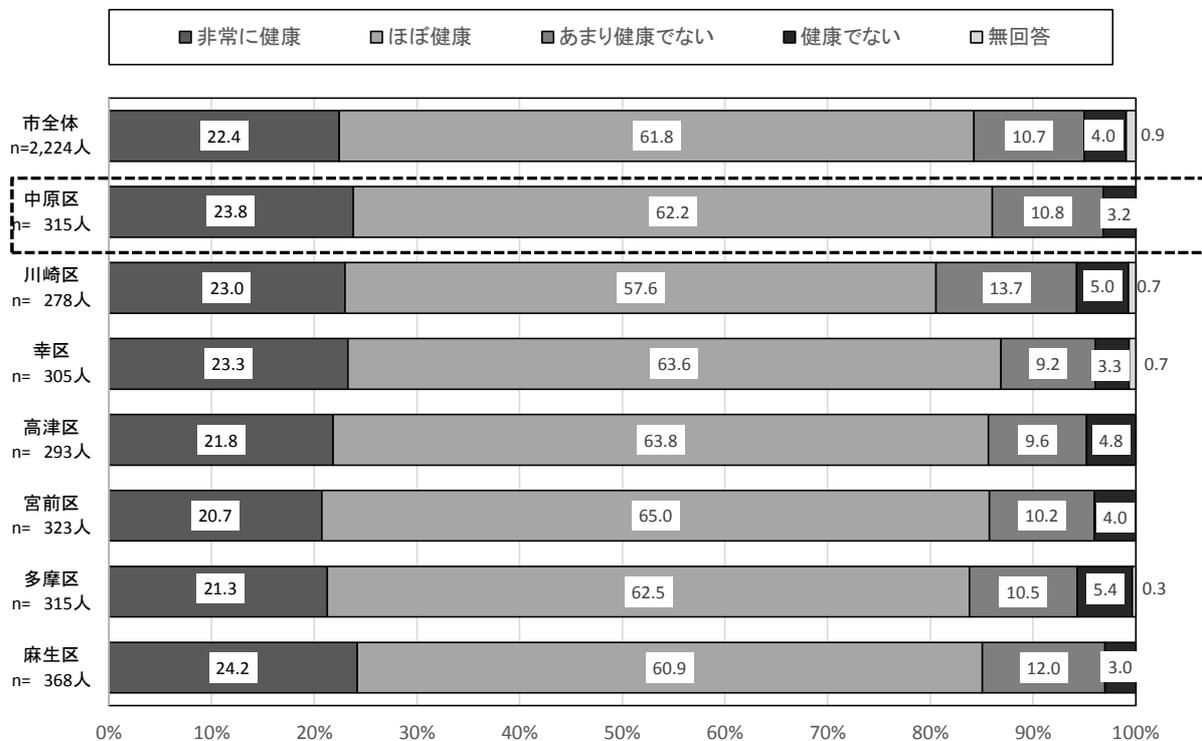


イ. 就業形態



問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

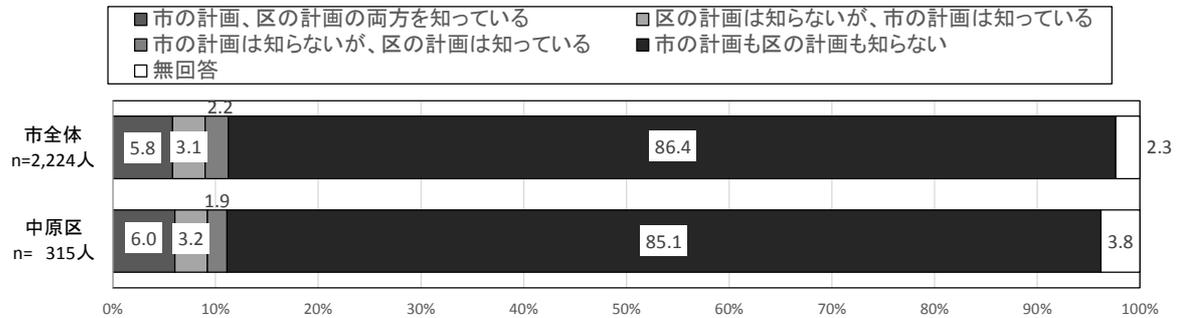
中原区では、健康状態が「ほぼ健康」の方の割合が62.2%で市全体(61.8%)をやや上回っている。市内6区と比較すると、「ほぼ健康」(62.2%)、「非常に健康」(23.8%)を合わせた割合が86.0%で2番目に高くなっている。



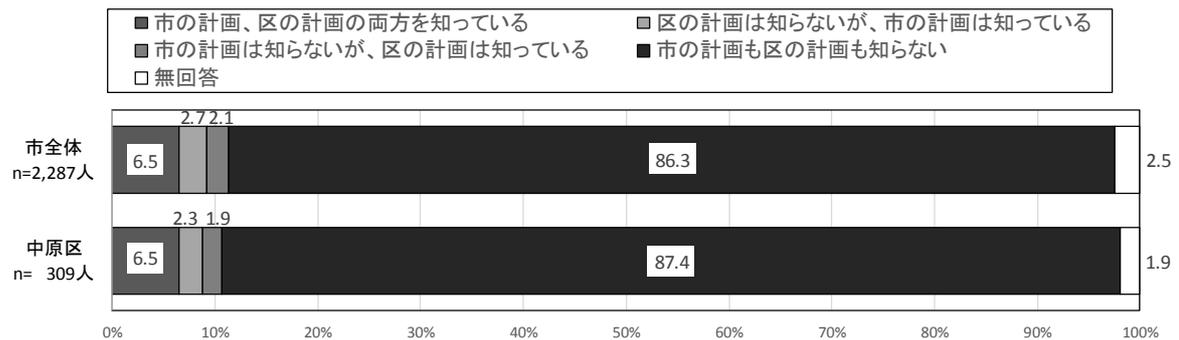
2. 『川崎市地域福祉計画』について

問 12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。（1つに○）

中原区では、「市の計画も区の計画も知らない」割合が85.1%となっている。第4回調査結果と比較すると、「市の計画も区の計画も知らない」割合は2.3ポイント低下している。



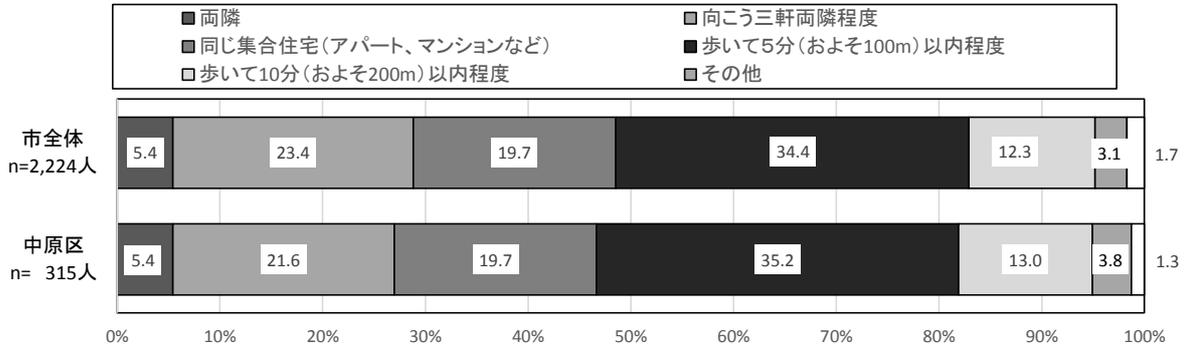
【参考】第4回調査結果



3. 近隣地域とその課題について

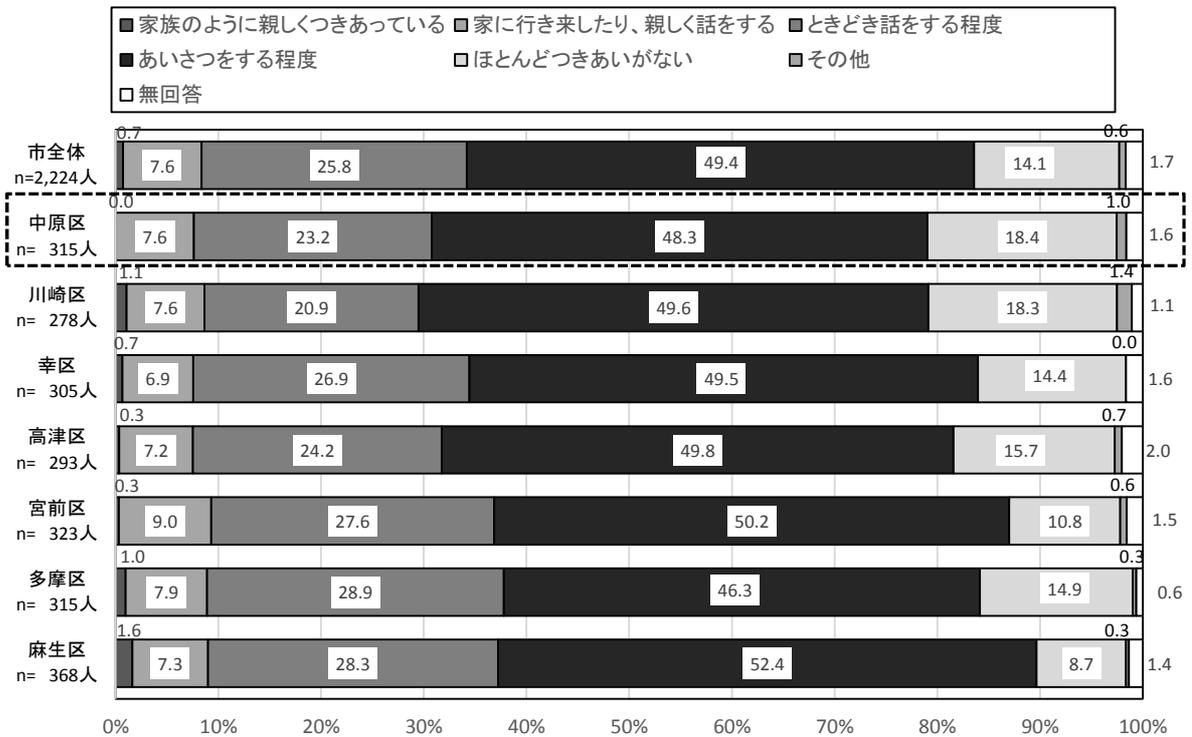
問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（1つに○）

中原区では、「向こう三軒両隣」の割合が21.6%で市全体（23.4%）を下回っている。



問14 あなたは、ふだんご近所の方との程度のつきあいをしていますか。（1つに○）

中原区では、「ときどき話をする程度」の割合が23.2%で市全体（25.8%）を下回っている。市内6区と比較すると、「家族のように親しくつきあっている」、「家に行き来したり、親しく話をする」、「ときどき話をする程度」を合わせた割合は30.8%で、2番目に低くなっている。

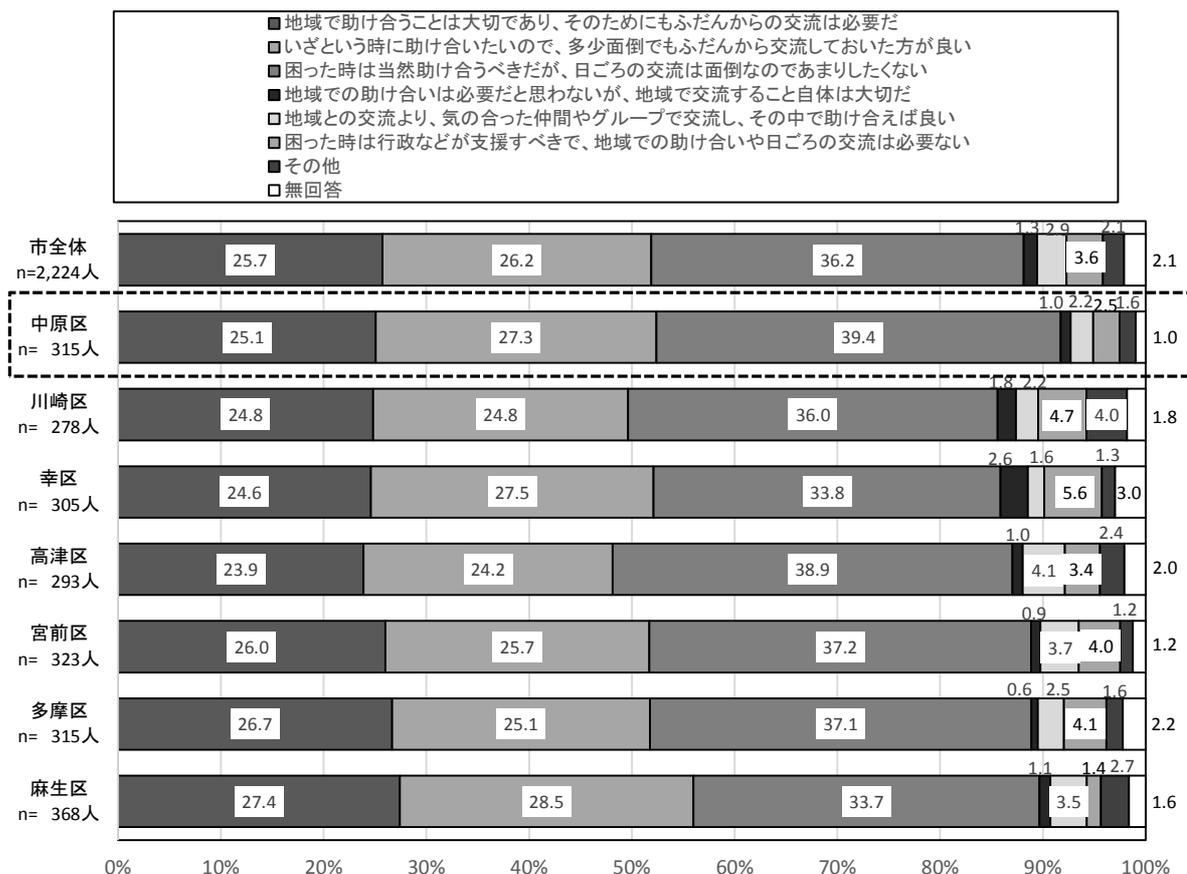


問 15 あなたは、近所づきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。

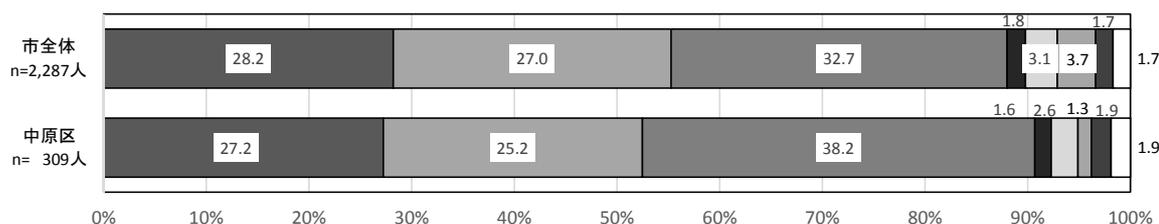
(1つに○)

中原区では、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合が27.3%で市全体(26.2%)を上回っている。市内6区と比較すると、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合は3番目に高く、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」を合わせた割合は52.4%で2番目に高い。また、「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合は39.4%で最も高い。

第4回調査と比較すると、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」の割合は2.1ポイント低下している。

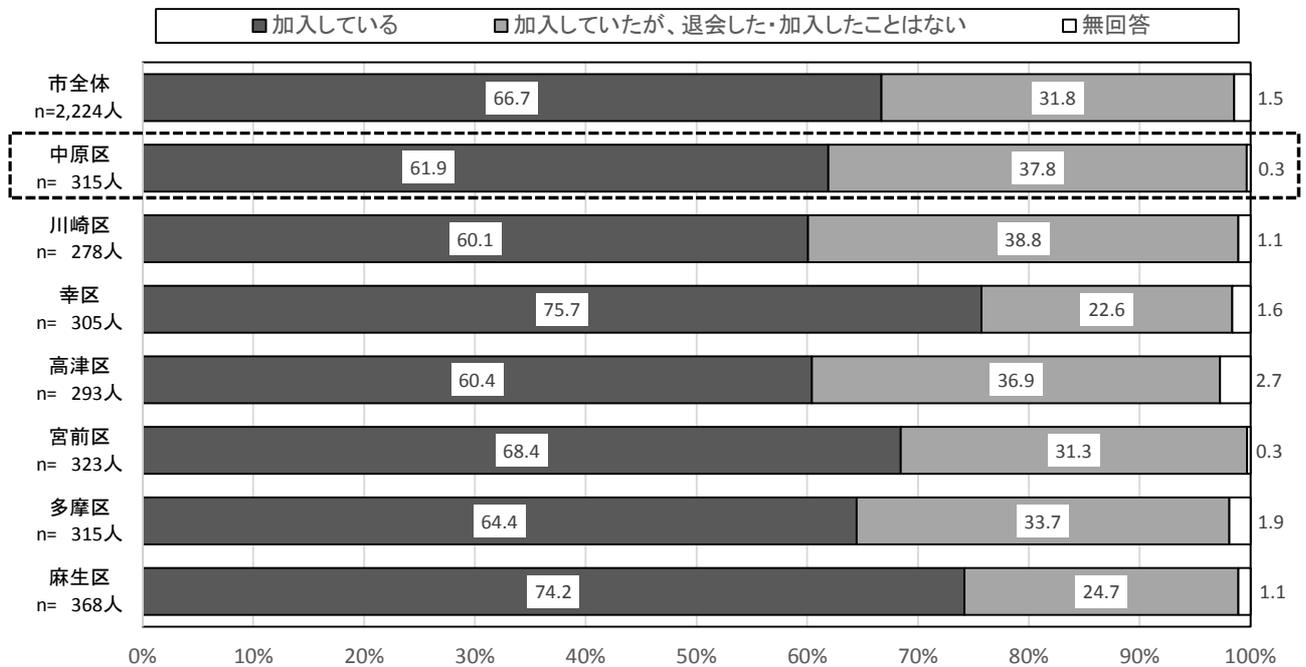


【参考】第4回調査結果



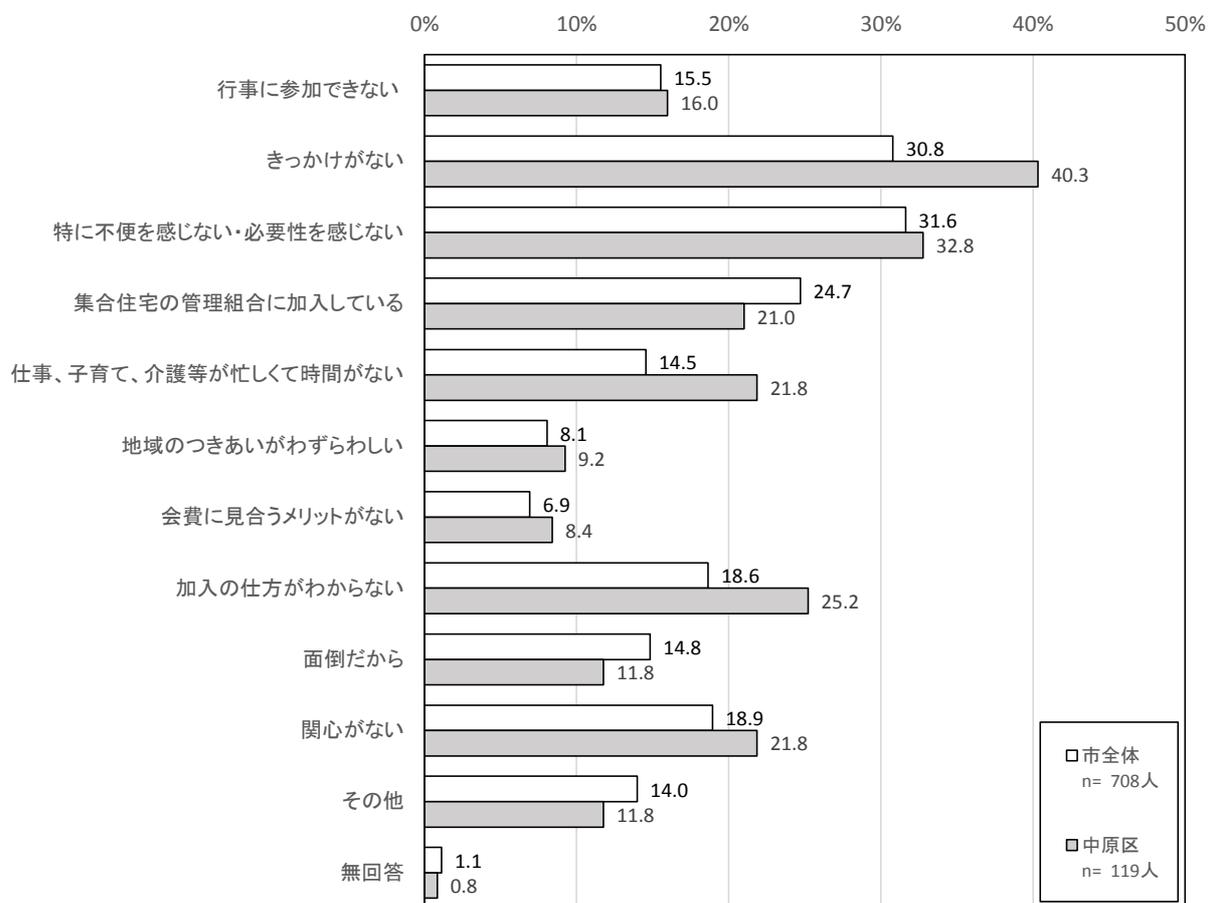
問 16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

中原区では、「加入している」割合が61.9%で市全体(66.7%)を下回っている。市内6区と比較すると、「加入している」割合は61.9%で3番目に低く、最も高い幸区(75.7%)とは13.8ポイントの差がある。



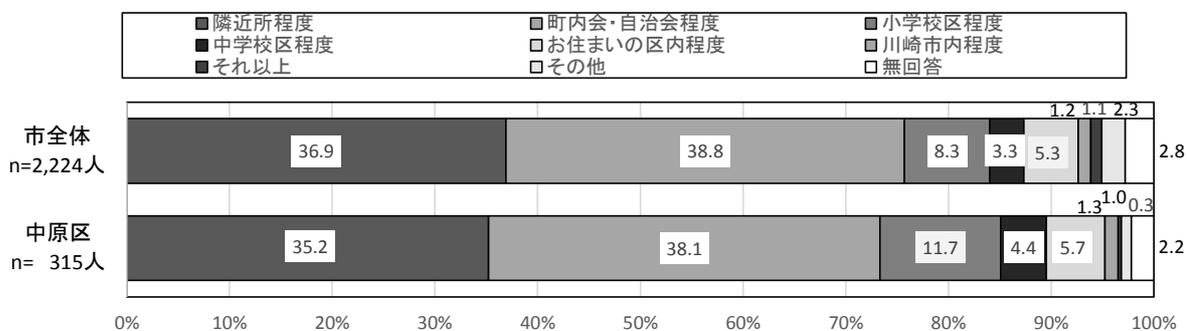
問 16 - 1 《問 16 で「加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方》現在加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「きっかけがない」の割合が 40.3%で市全体（30.8%）を上回っている。



問 17 あなたは、助けあいをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（1つに○）

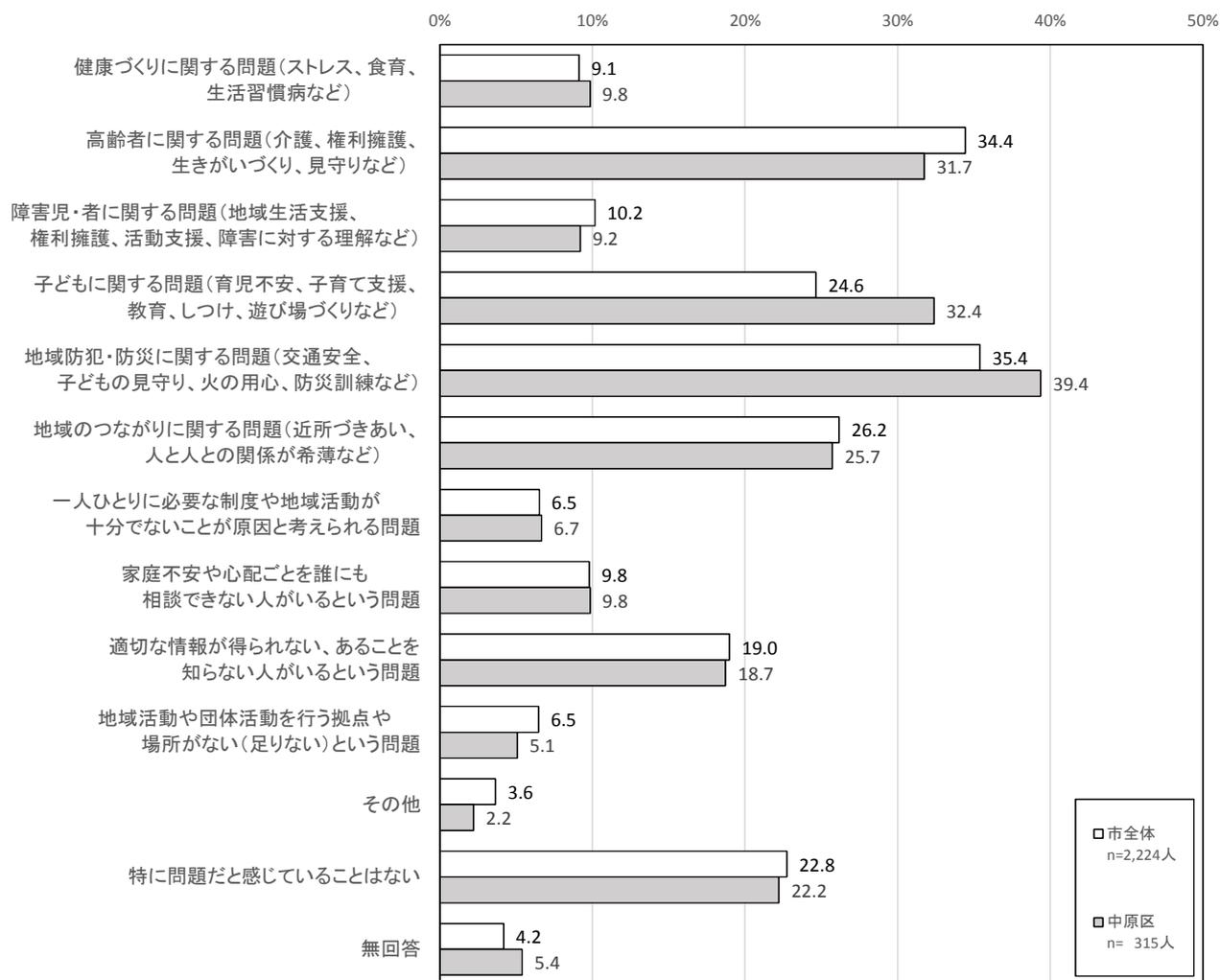
中原区では、「町内会・自治会程度」の割合が 38.1%で市全体（38.8%）をやや下回っている。



問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

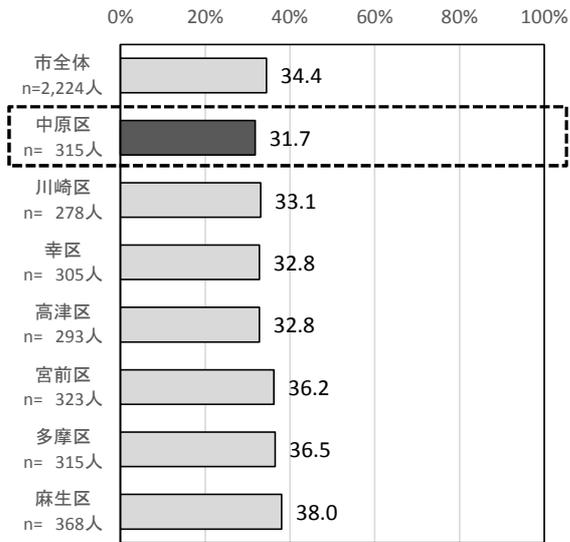
中原区では、「地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)」の割合が39.4%で最も高く、次いで「子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)」(32.4%)、「高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)」(31.7%)となっている。

市内6区と比較すると、「高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)」(31.7%)が最も低く、「適切な情報が得られない、あることを知らないという問題」(18.7%)が2番目に低い。また、「地域防犯・防災に関する問題」については39.4%と最も高くなっている。

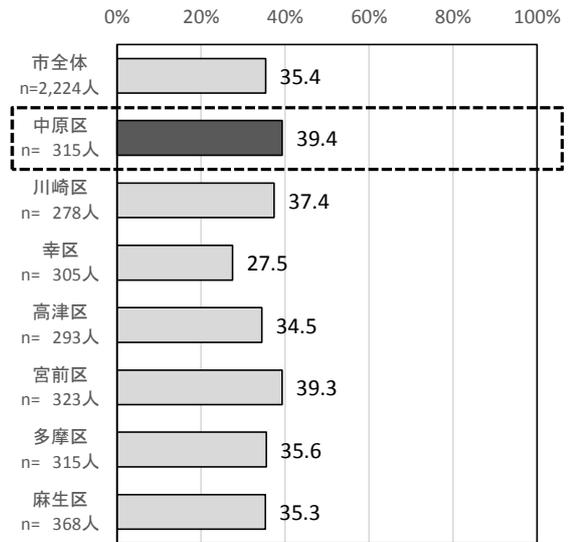


【参考】

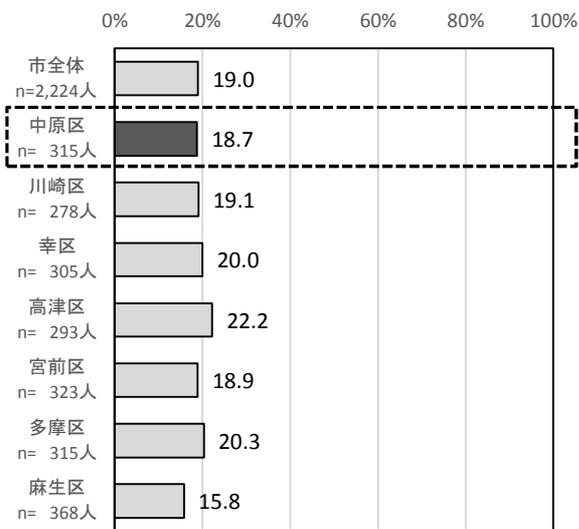
高齢者に関する問題



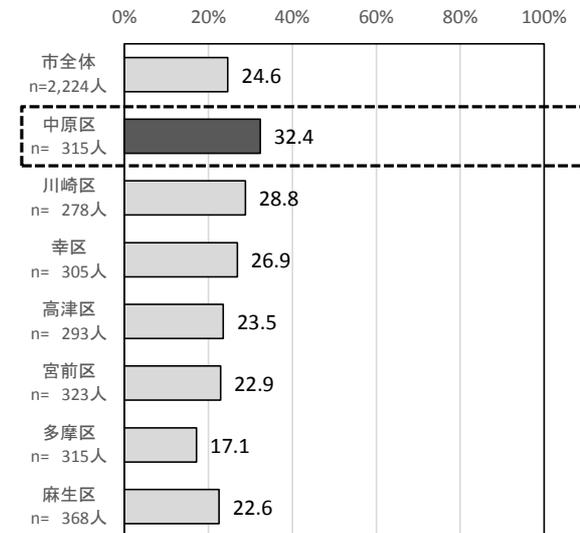
地域防犯・防災に関する問題



適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題

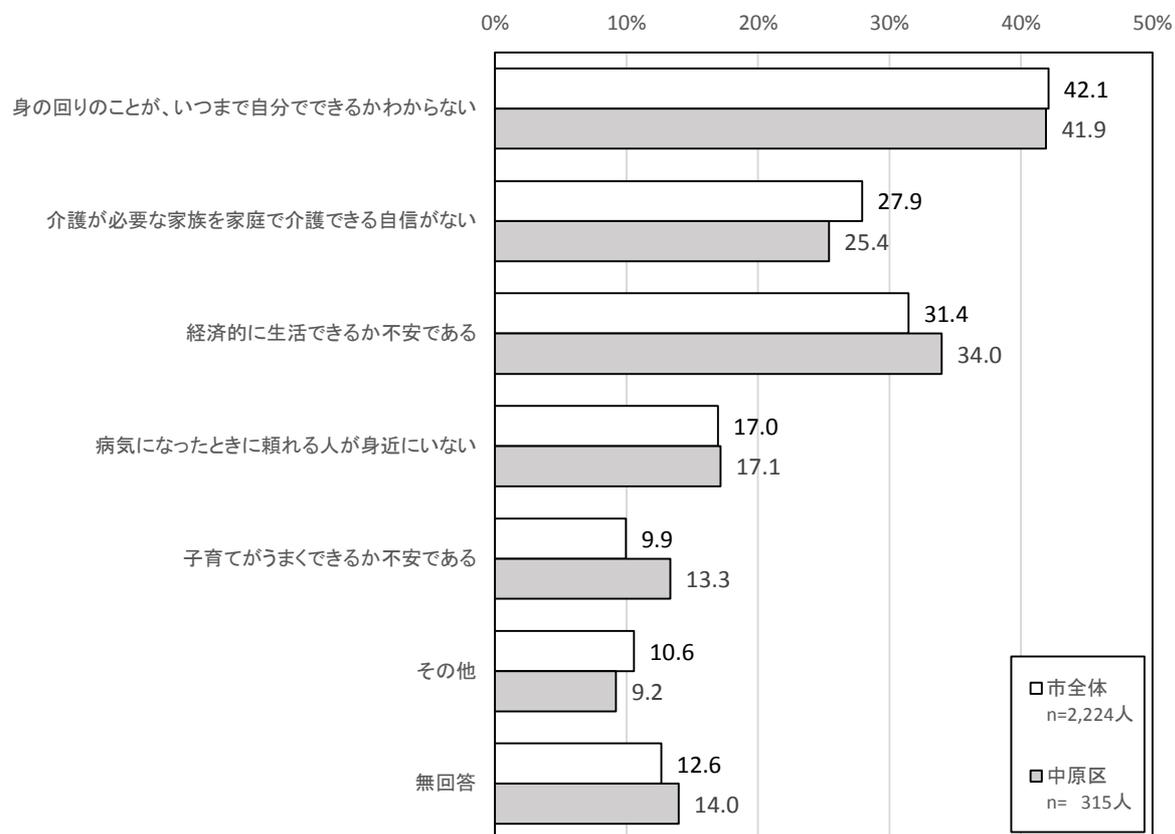


子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)



問 19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

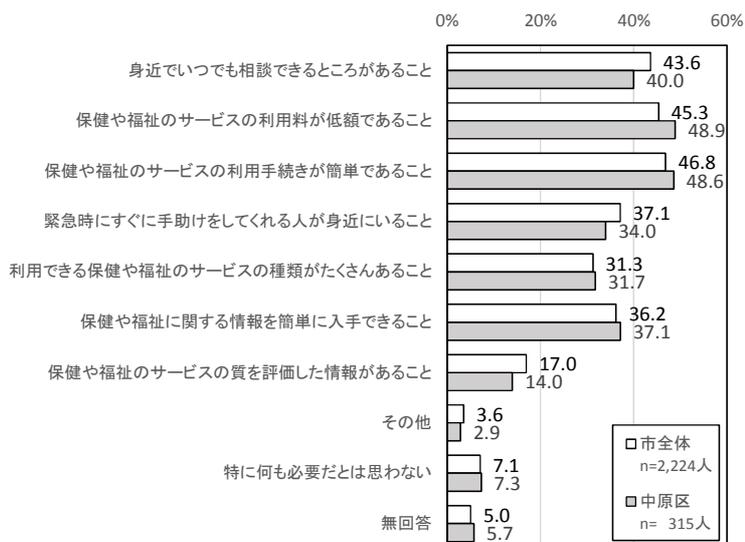
中原区では、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」の割合が41.9%で最も高く、次いで「経済的に生活できるか不安である」(34.0%)、「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」(25.4%)となっている。



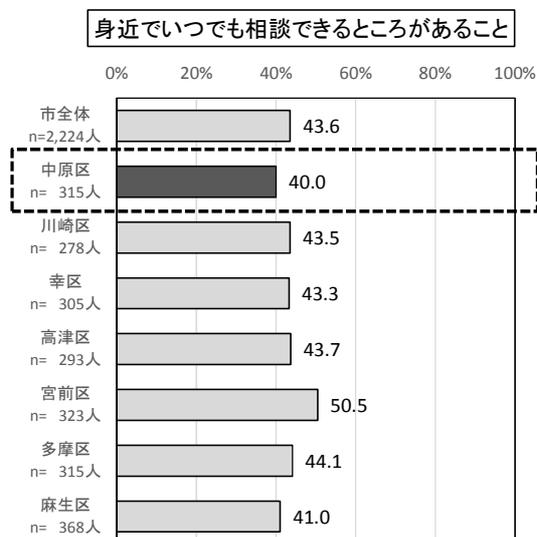
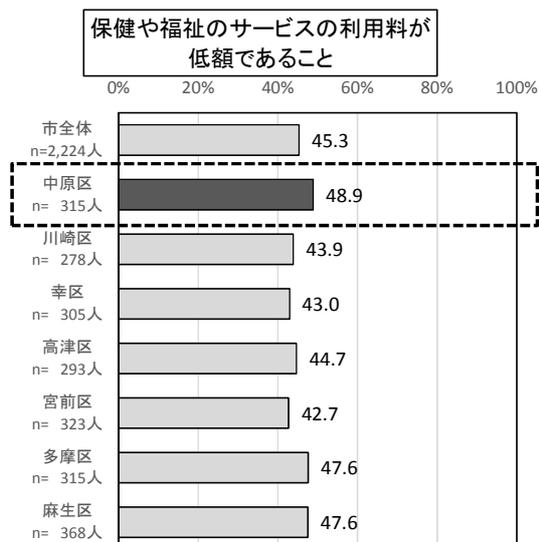
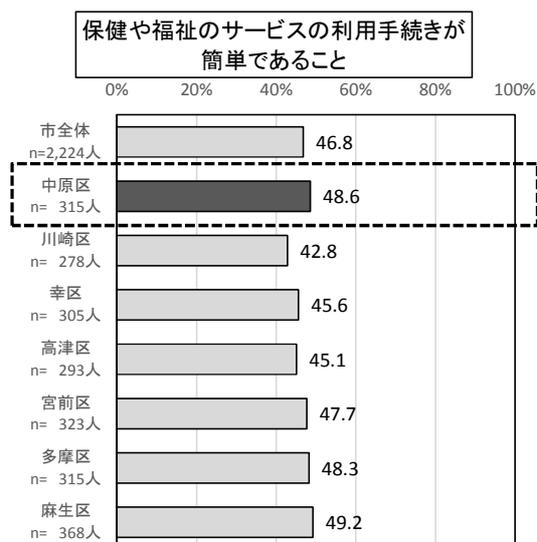
問20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

中原区では、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」が48.6%で、市全体(46.8%)を上回っている。

市内6区と比較すると、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」は48.6%で2番目に高い。また、「保健や福祉のサービスの利用料が低額であること」は48.9%で最も高く、「身近でいつでも相談できるところがあること」は40.0%で最も低くなっている。



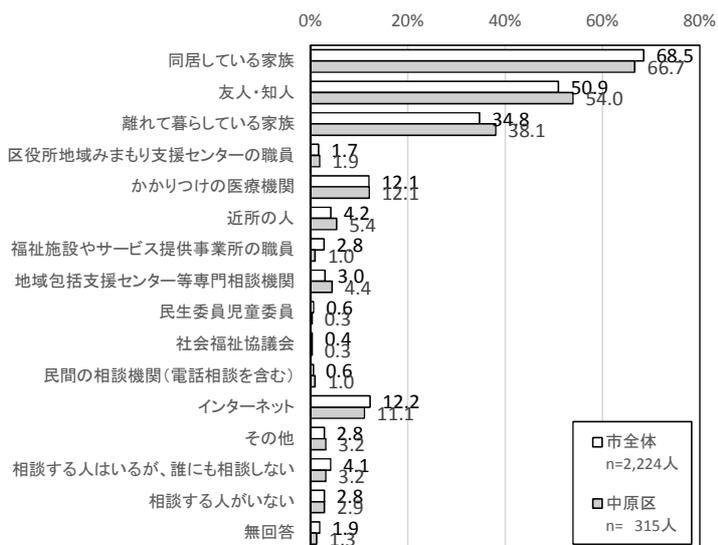
【参考】



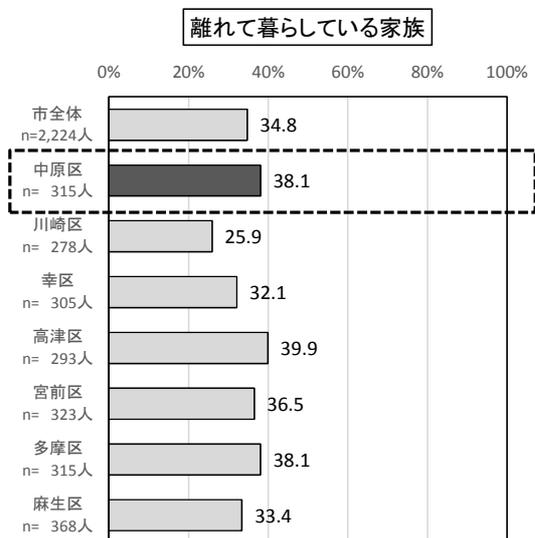
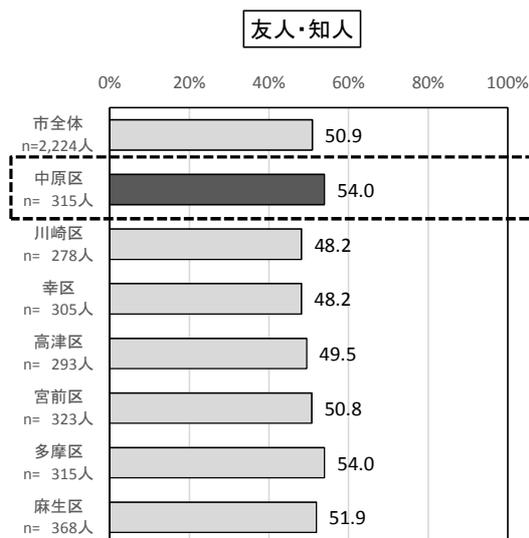
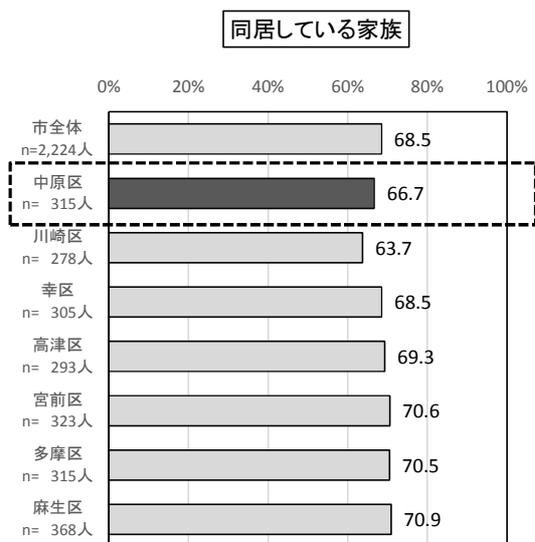
問 21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「同居している家族」が66.7%で市全体（68.5%）を下回っている。

市内6区と比較すると、「同居している家族」は66.7%で2番目に低い。また、「友人・知人」は54.0%と最も高く、「離れて暮らしている家族」は38.1%と2番目に高くなっている。



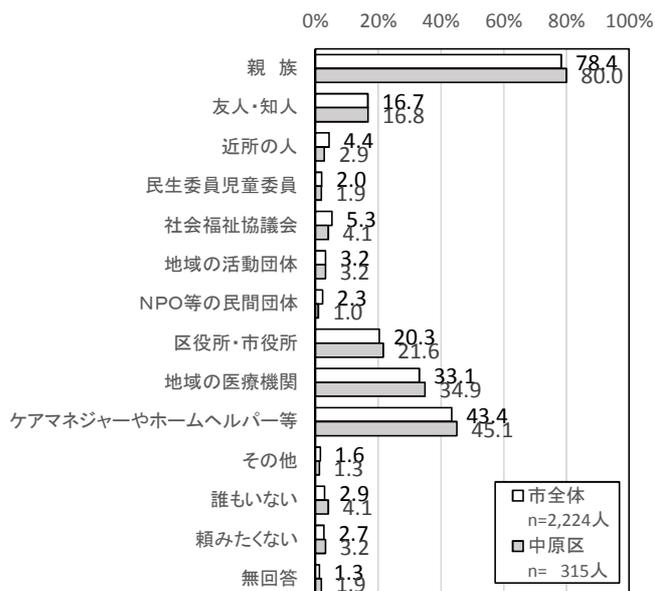
【参考】



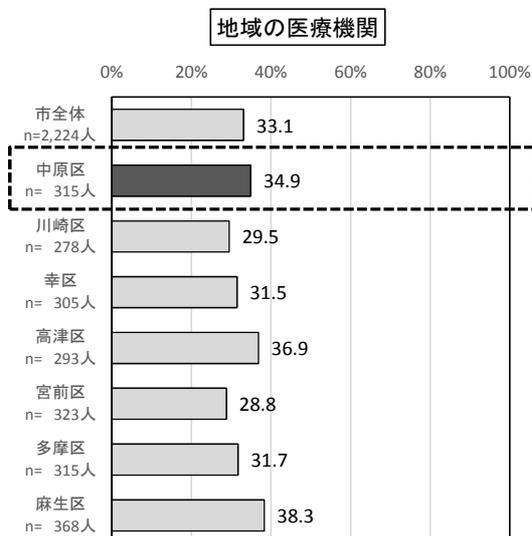
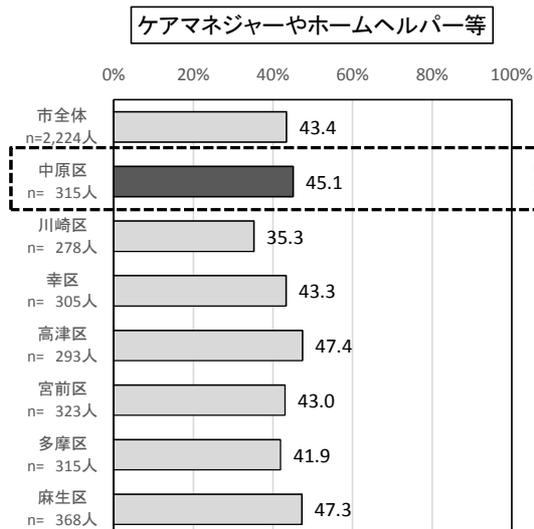
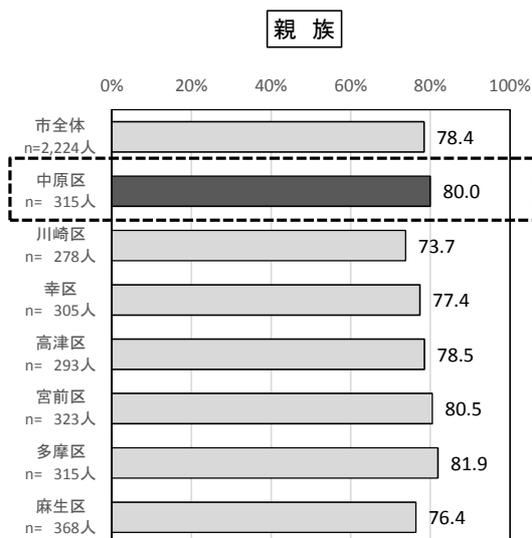
問 23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。（3つまでに○）

中原区では、「親族」が 80.0% で、市全体（78.4%）より上回っている。

市内6区と比較すると、「親族」が 80.0% と 3 番目に高い。また、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」（45.1%）、「地域の医療機関」（34.9%）で 3 番目に高くなっている。



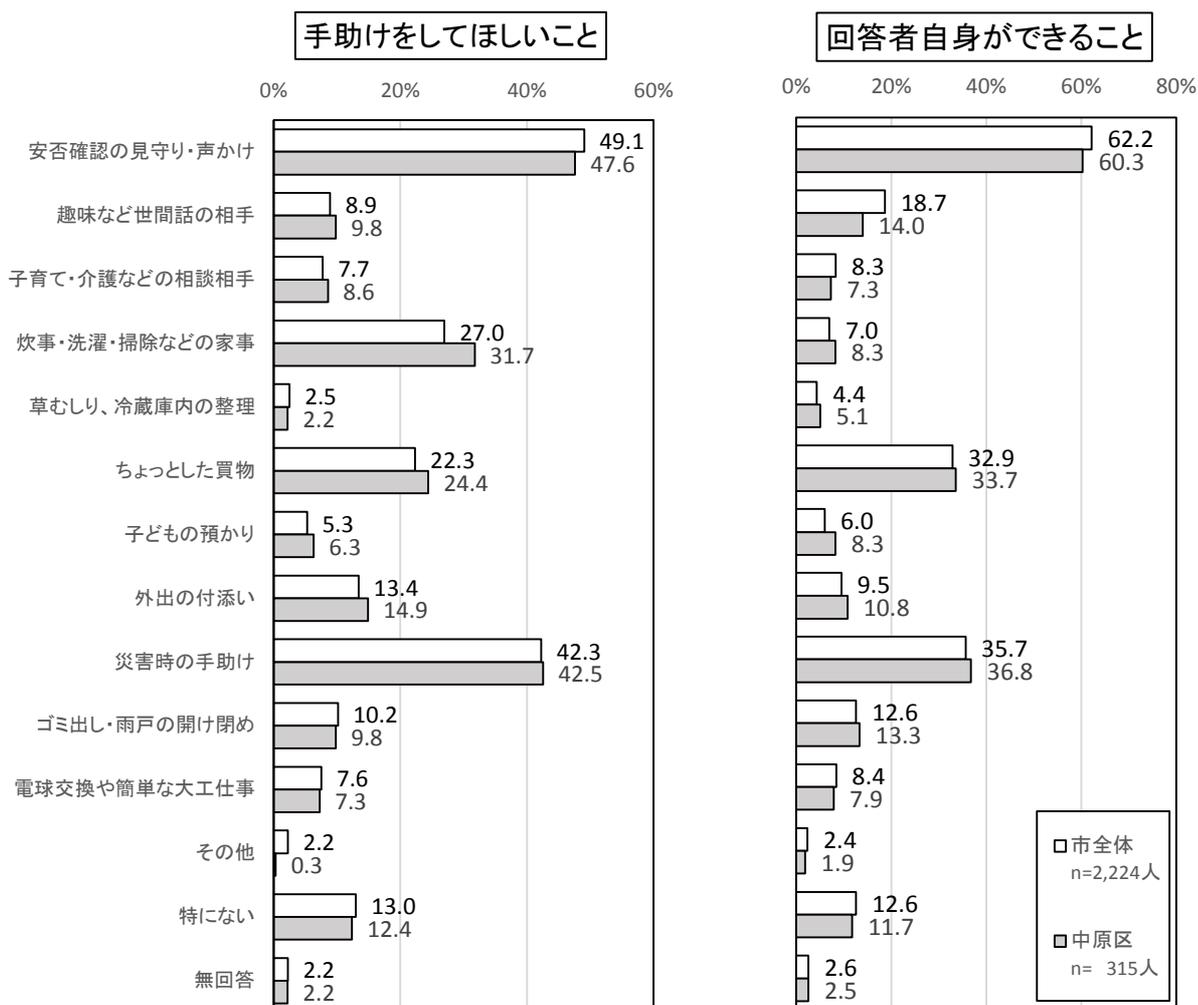
【参考】



問 24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。（3つまでに○）

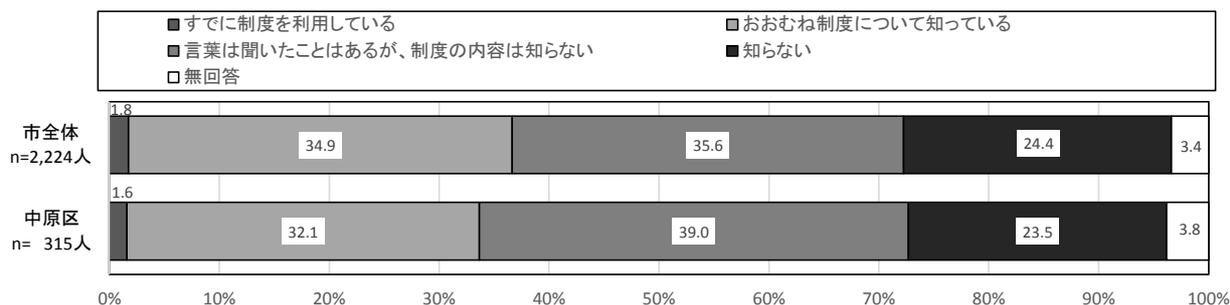
問 25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。（3つまでに○）

中原区では、手助けをしてほしいことについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が47.6%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（42.5%）、「炊事・洗濯・掃除などの家事」（31.7%）となっており、自身ができることについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が60.3%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（36.8%）、「ちょっとした買い物」（33.7%）となっている。



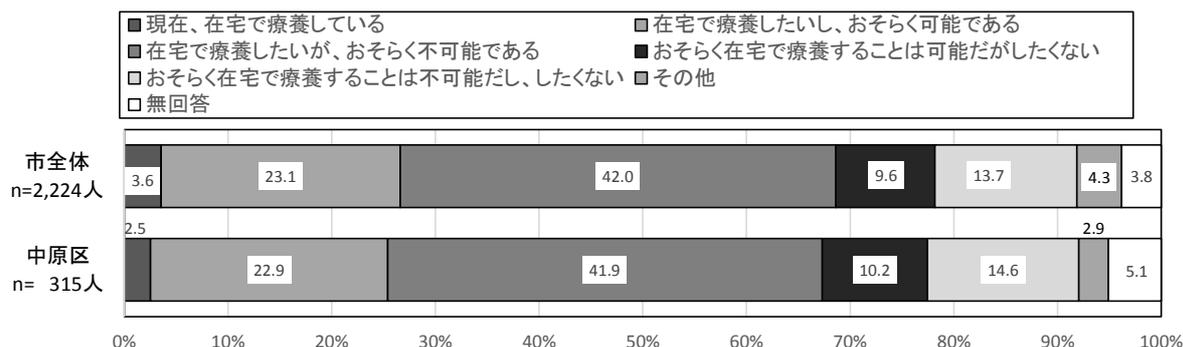
問 26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（1つに○）（新規設問）

中原区では、「言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」の割合が39.0%で最も高く、次いで「おおむね制度について知っている」（32.1%）、「知らない」（23.5%）となっている。



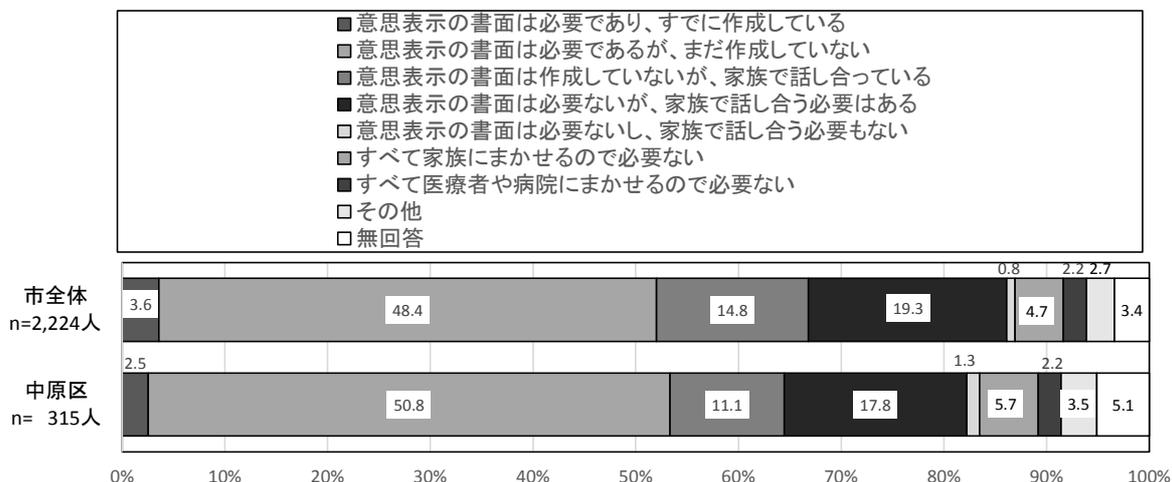
問 27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。（1つに○）（新規設問）

中原区では、「在宅で療養したいが、おそらく不可能である」の割合が41.9%で最も高く、次いで「在宅で療養したいし、おそらく可能である」（22.9%）、「おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない」（14.6%）となっている。



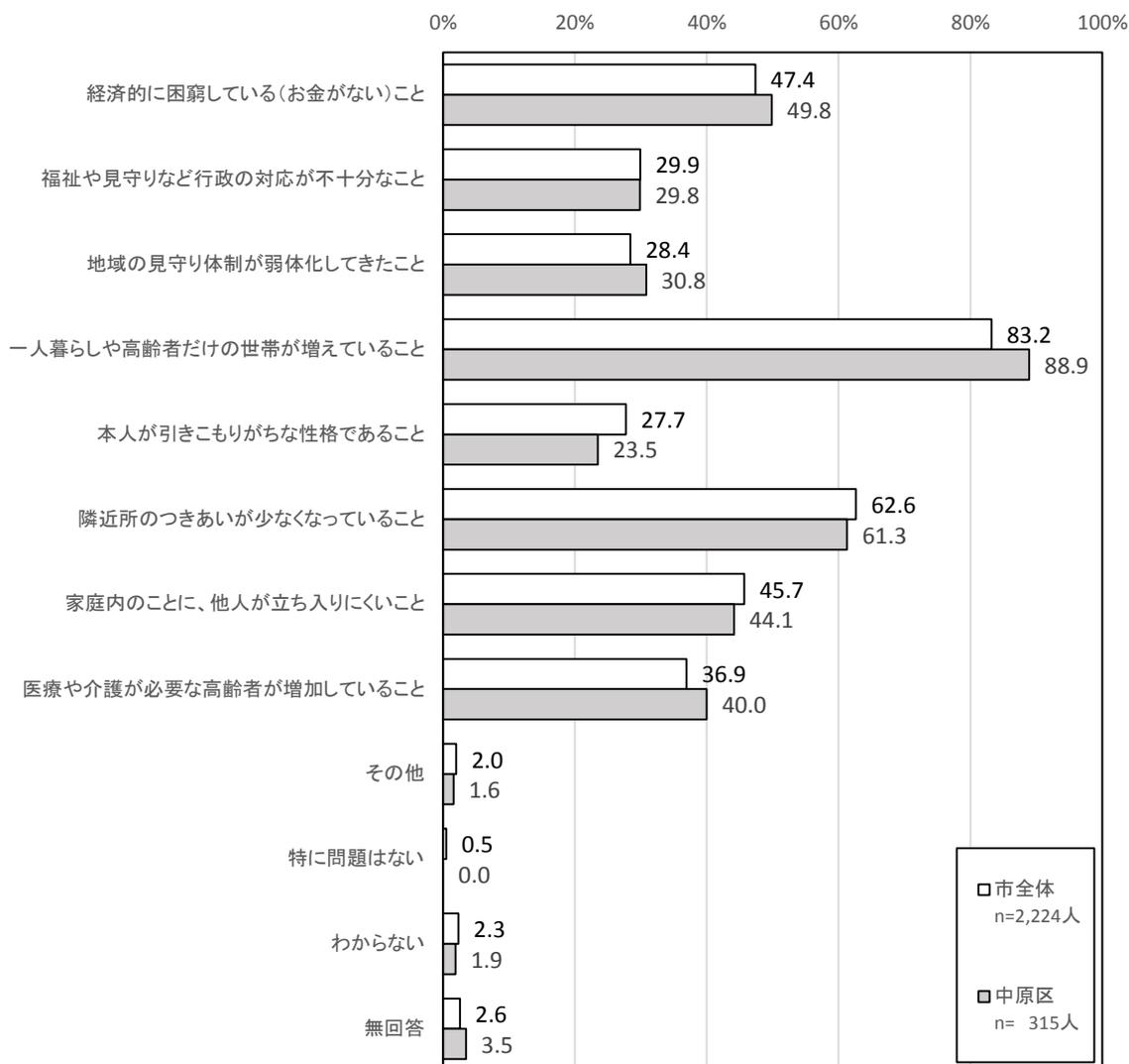
問 28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。（1つに○）（新規設問）

中原区では、「意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない」の割合が50.8%で最も高く、次いで「意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある」（17.8%）、「意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている」（11.1%）となっている。



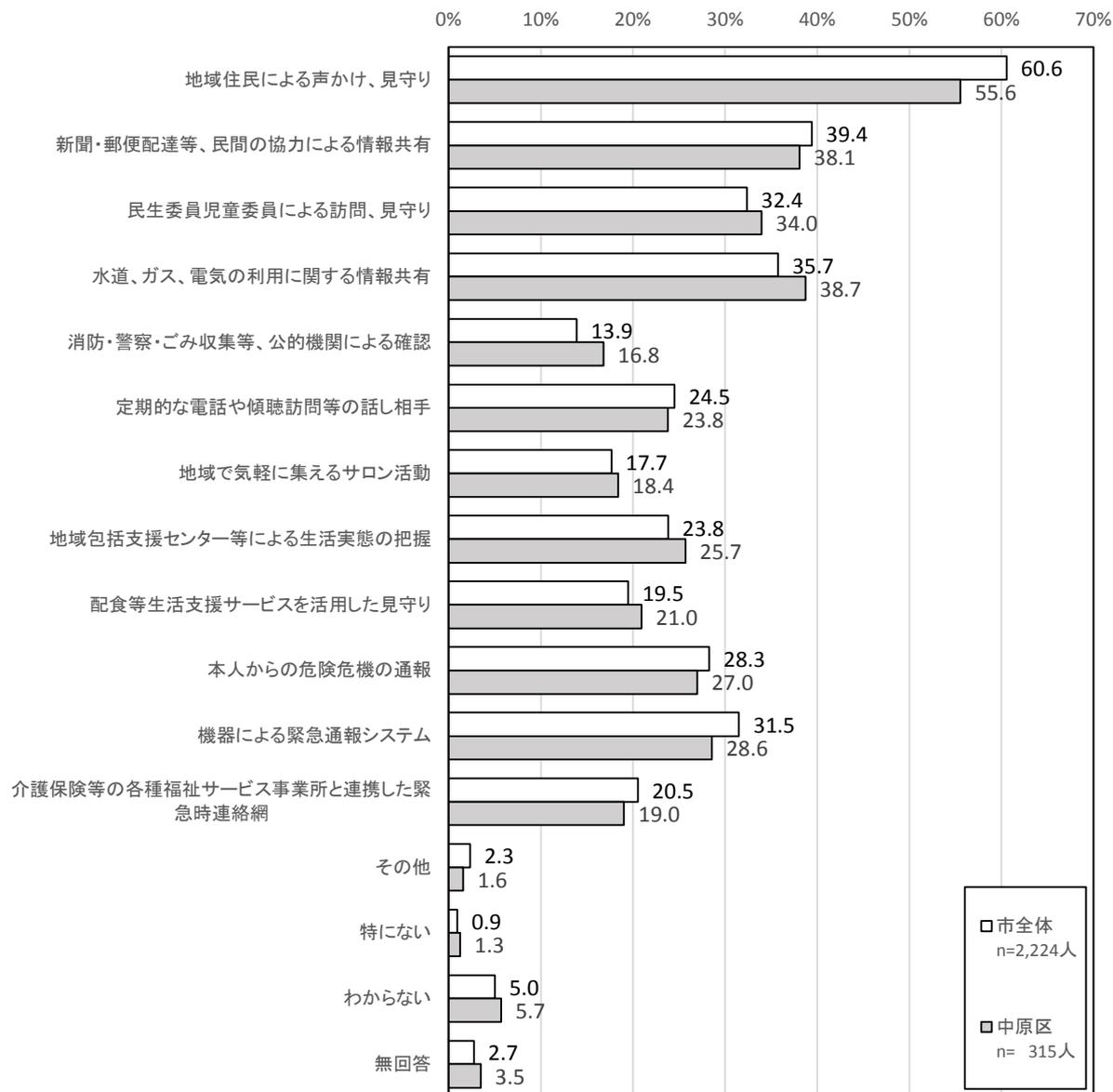
問 29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題となっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること」の割合が 88.9%で最も高く、次いで「隣近所のつきあいが少なくなっていること」（61.3%）、「経済的に困窮している（お金がない）こと」（49.8%）となっている。



問 30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

中原区では、「地域住民による声かけ、見守り」の割合が55.6%で最も高く、次いで「水道、ガス、電気の利用に関する情報共有」(38.7%)、「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有」(38.1%)、「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有」(38.1%)となっている。

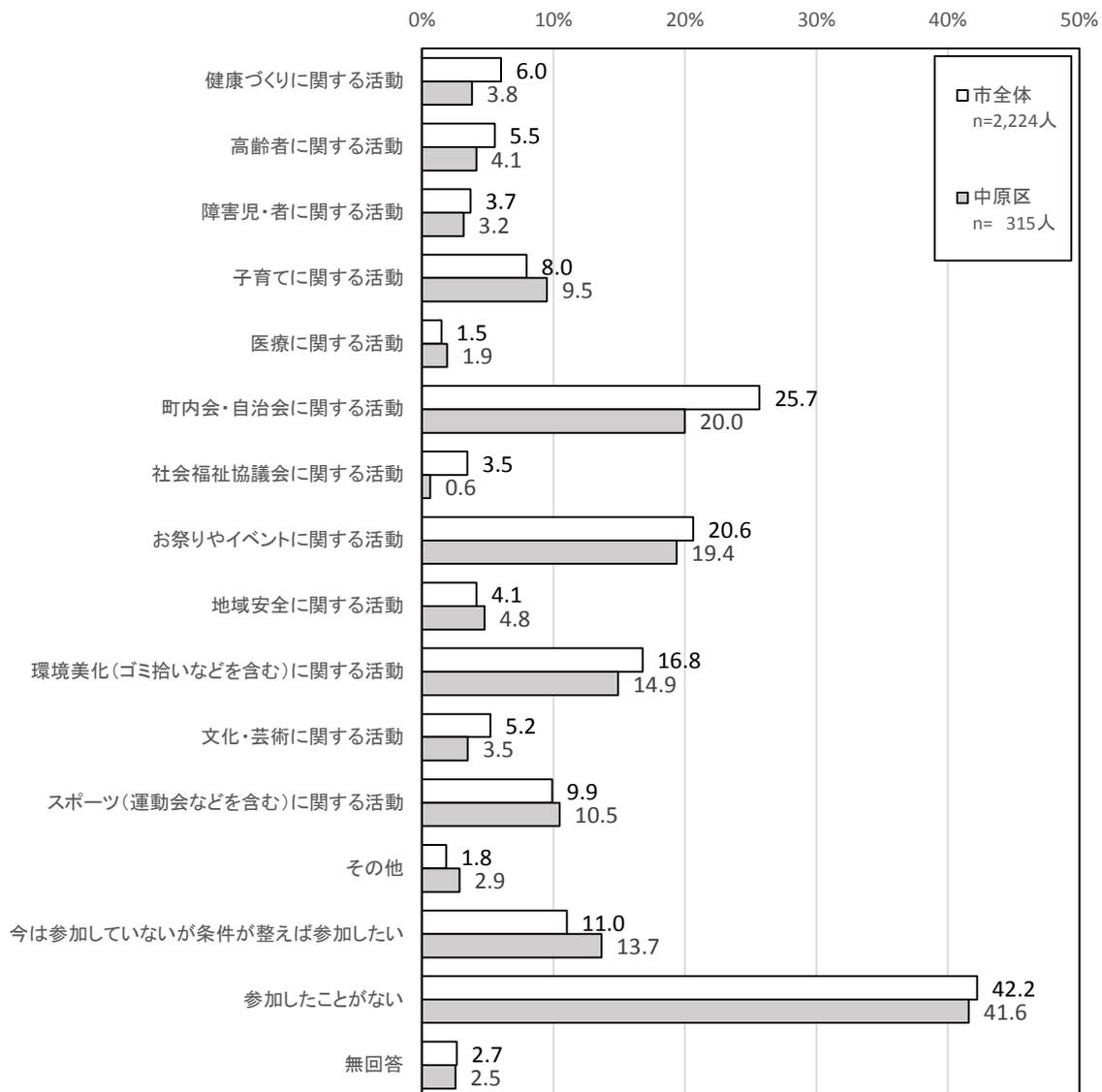


4. 地域活動やボランティア活動について

問 31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

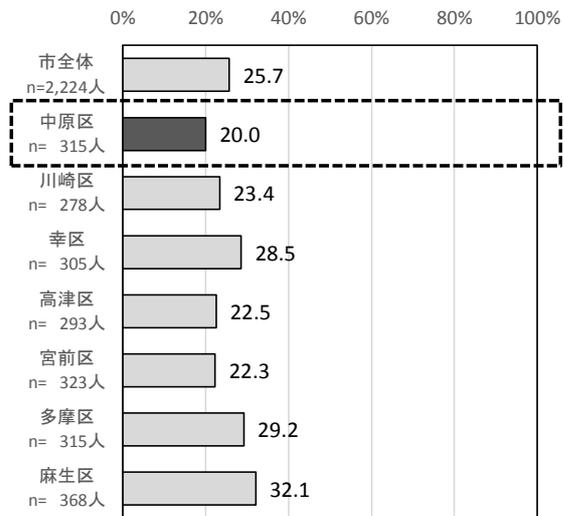
中原区では、「参加したことがない」の割合が41.6%で最も高く、次いで「町内会・自治会に関する活動」（20.0%）、「お祭りやイベントに関する活動」（19.4%）となっている。

市内6区と比較すると、「環境美化（ゴミ拾いなどを含む）に関する活動」（14.9%）、「参加したことがない」（41.6%）の割合は3番目に低く、「町内会・自治会に関する活動」（20.0%）、「社会福祉協議会に関する活動」（0.6%）で、最も低くなっている。

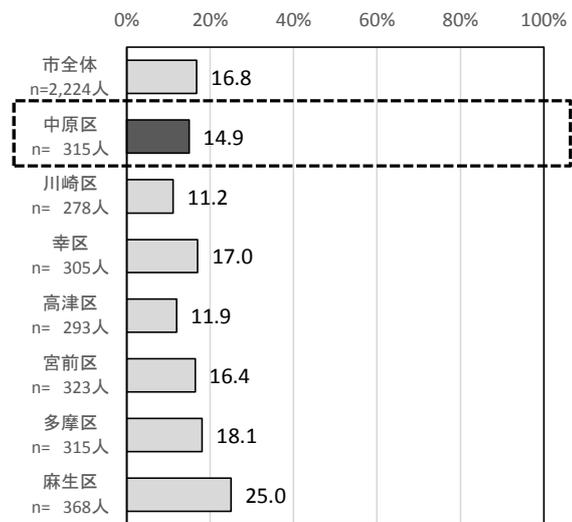


【参考】

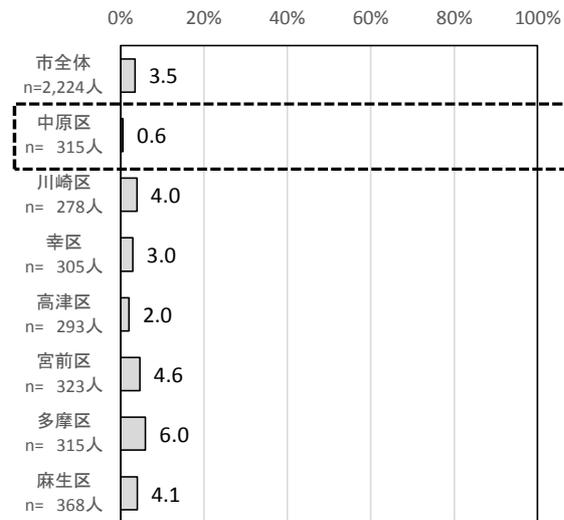
町内会・自治会に関する活動



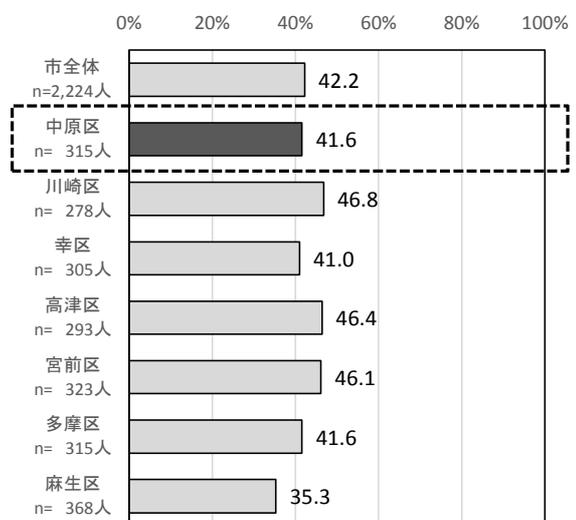
環境美化に関する活動



社会福祉協議会に関する活動



参加したことがない

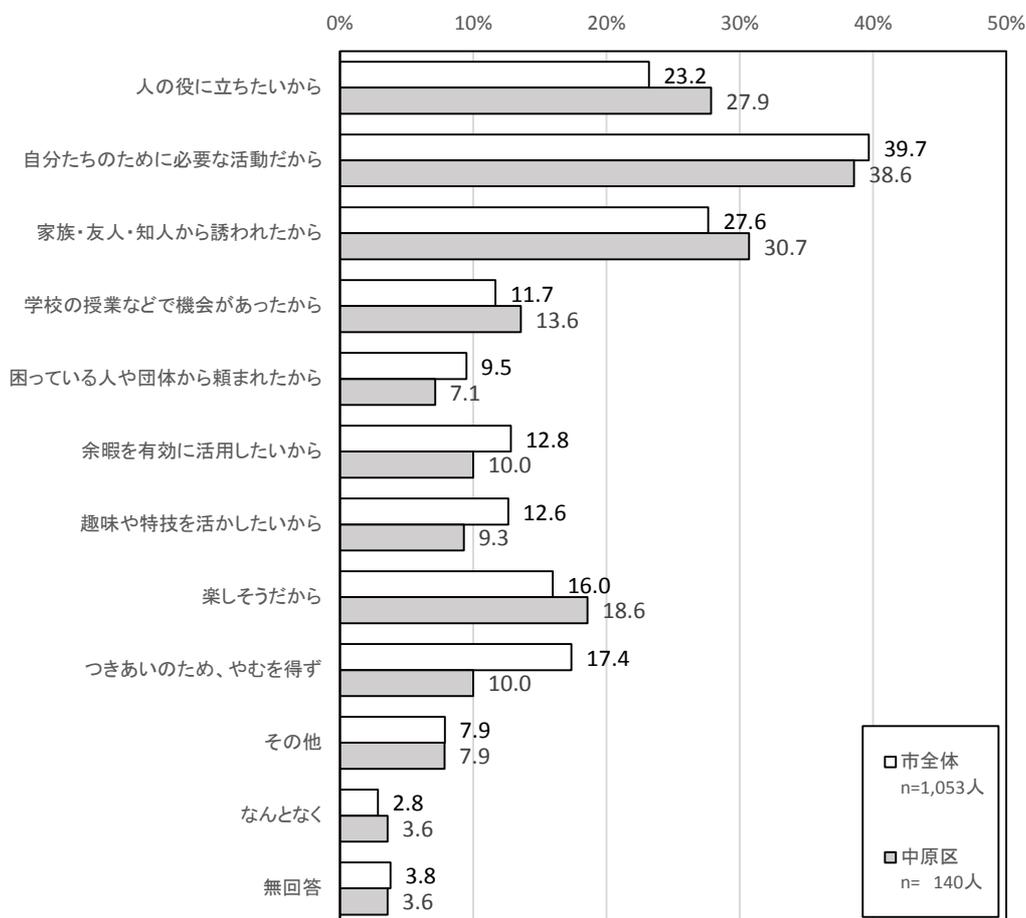


問 31 - 1 《問 31 で「1」～「13」のいずれか（ボランティア活動に参加したことがある）にお答えの方》

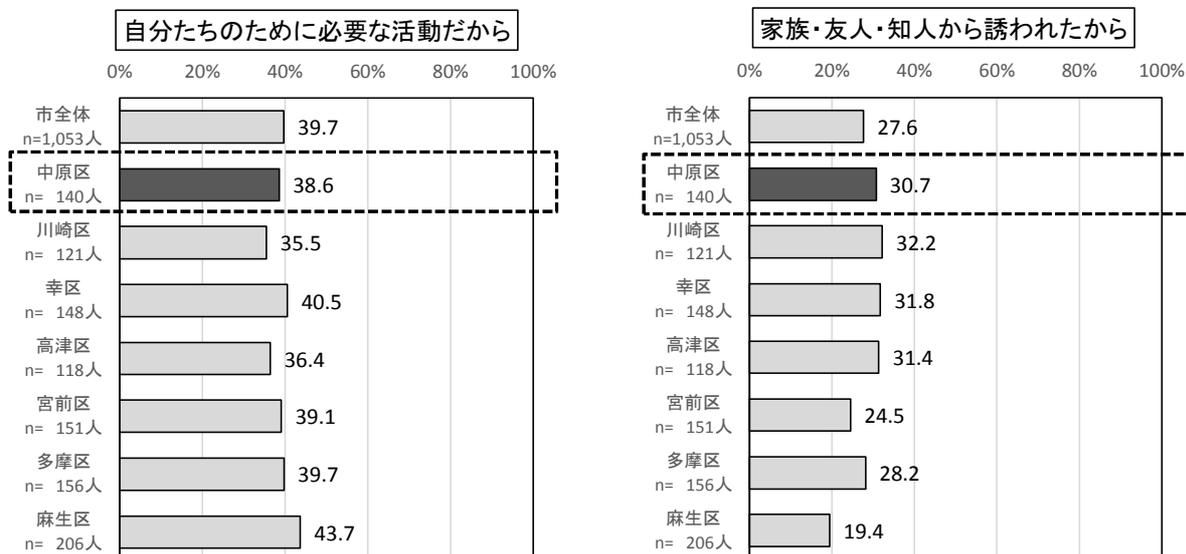
活動に参加した動機やきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「自分たちのために必要な活動だから」の割合が 38.6%で最も高く、次いで「家族・友人・知人から誘われたから」（30.7%）、「人の役に立ちたいから」（27.9%）となっている。

市内6区と比較すると、「自分たちのために必要な活動だから」の割合は 38.6%と3番目に低く、「家族・友人・知人から誘われたから」の割合は 30.7%と4番目に高くなっている。



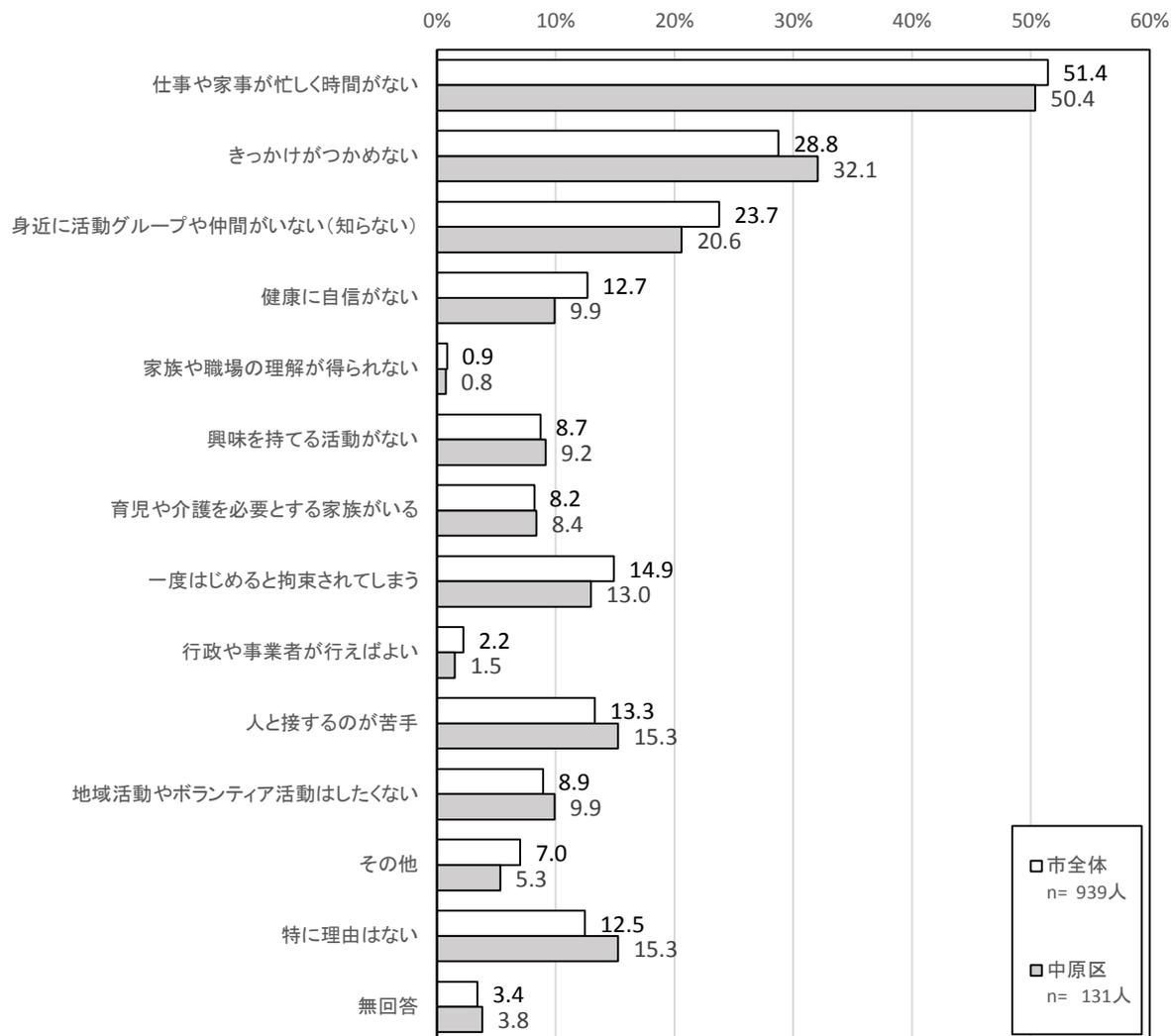
【参考】



問 31 - 6 《問 31 で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。
 (あてはまるものすべてに○)

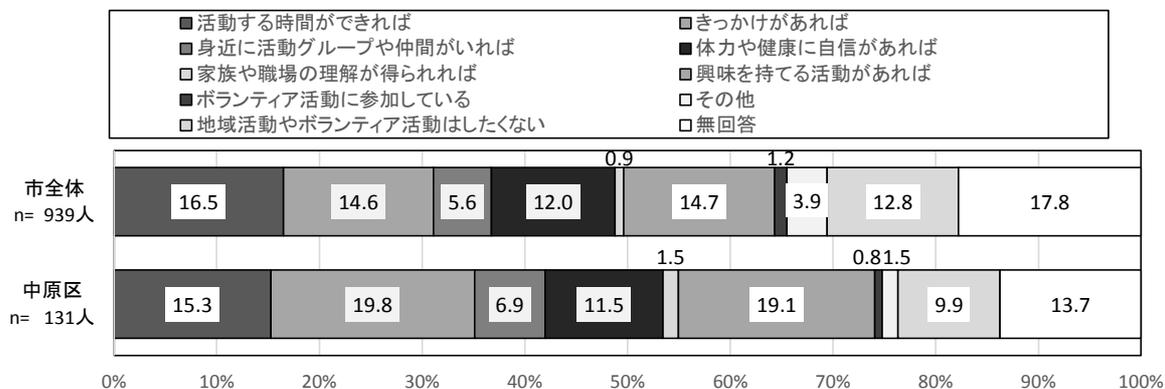
中原区では、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が 50.4%で最も高く、次いで「きっかけがつかめない」(32.1%)、「身近に活動グループや仲間がいない(知らない)」(20.6%)となっている。



問 31 - 7 《問 31 で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。（1つに○）

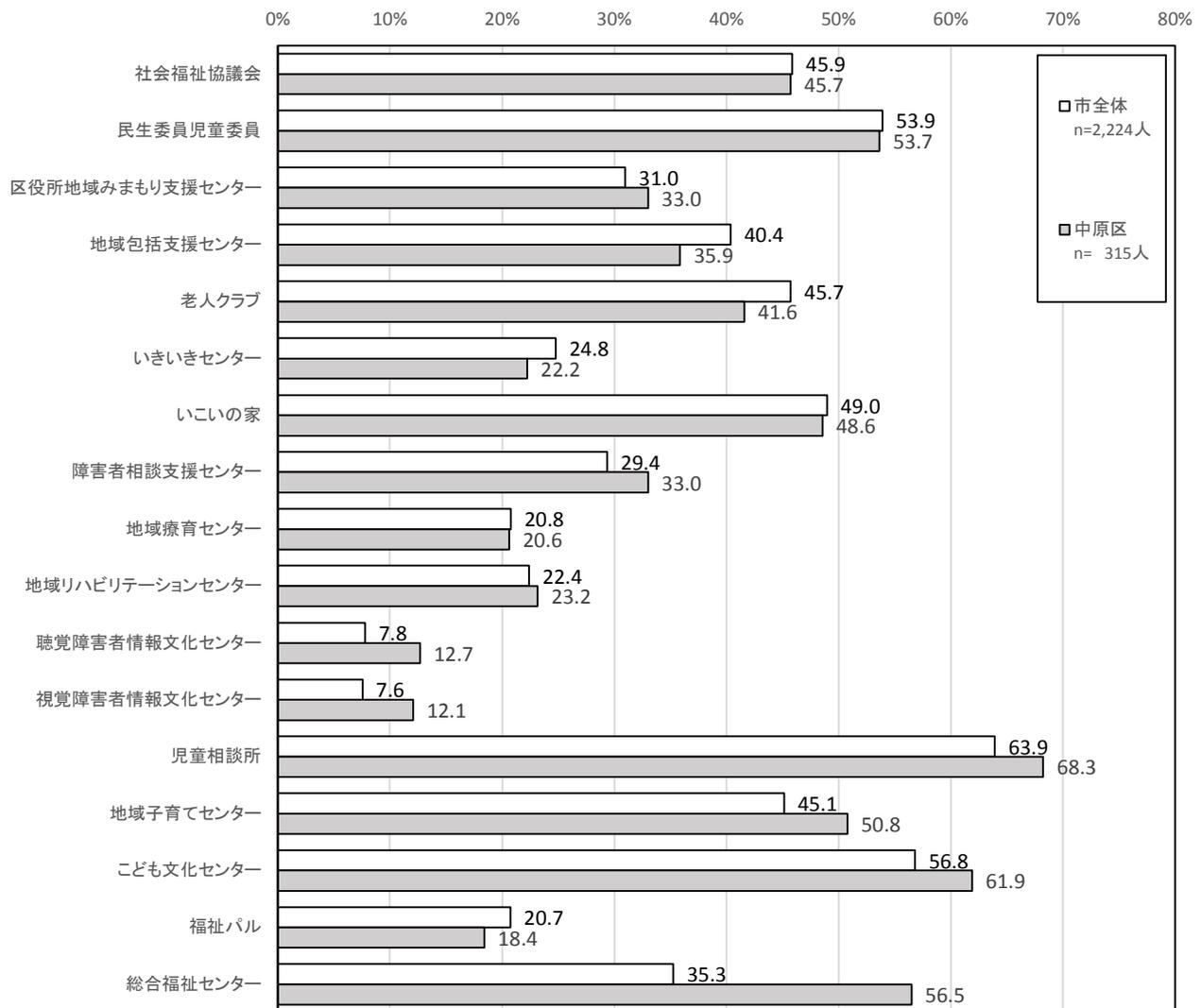
中原区では、「きっかけがあれば」の割合が 19.8% で最も高く、次いで「興味を持てる活動があれば」（19.1%）、「活動する時間ができれば」（15.3%）となっている。



5. 保健・福祉に関することについて

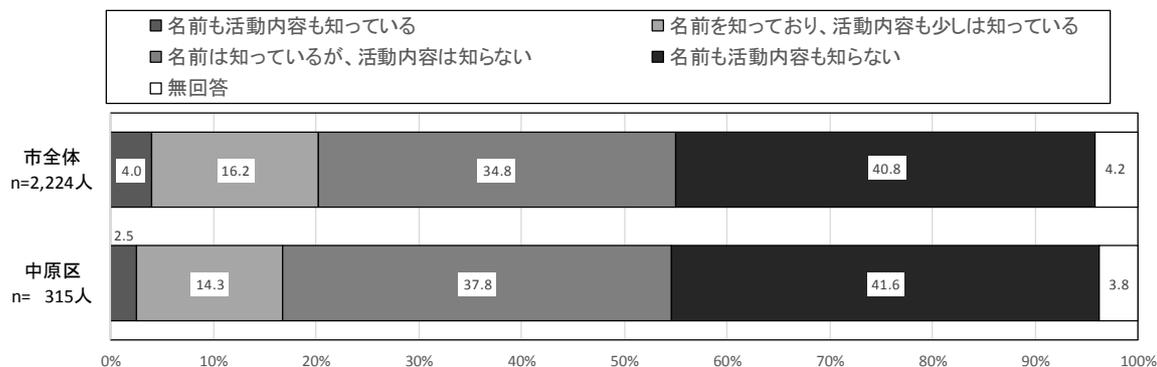
問 32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存じですか。(団体・施設等について「知っている」「知らない」のいずれか1つに○)

中原区では、「児童相談所」の割合が68.3%で最も高く、次いで「こども文化センター」(61.9%)、「総合福祉センター」(56.5%)となっている。



問 33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存じですか。（1つに○）

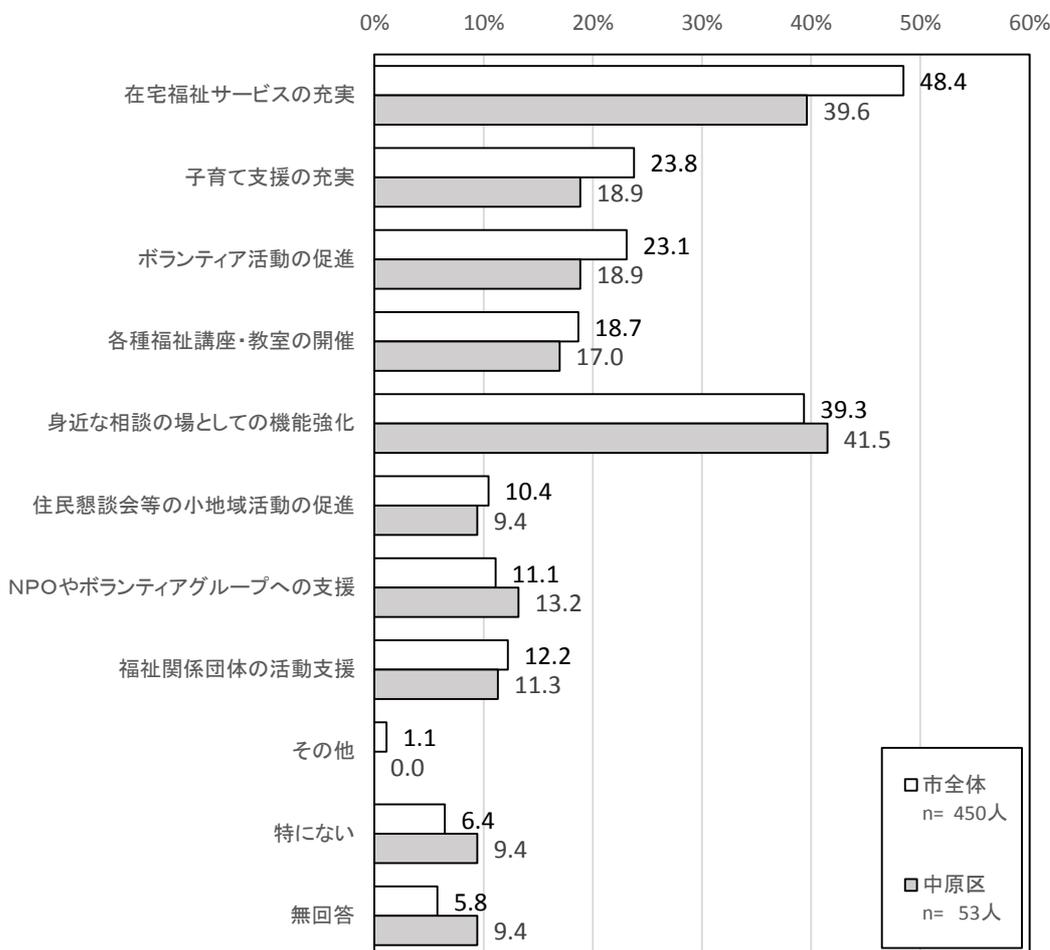
中原区では、「名前も活動内容も知っている」「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」の合計が16.8%で、市全体（20.2%）を下回っている。



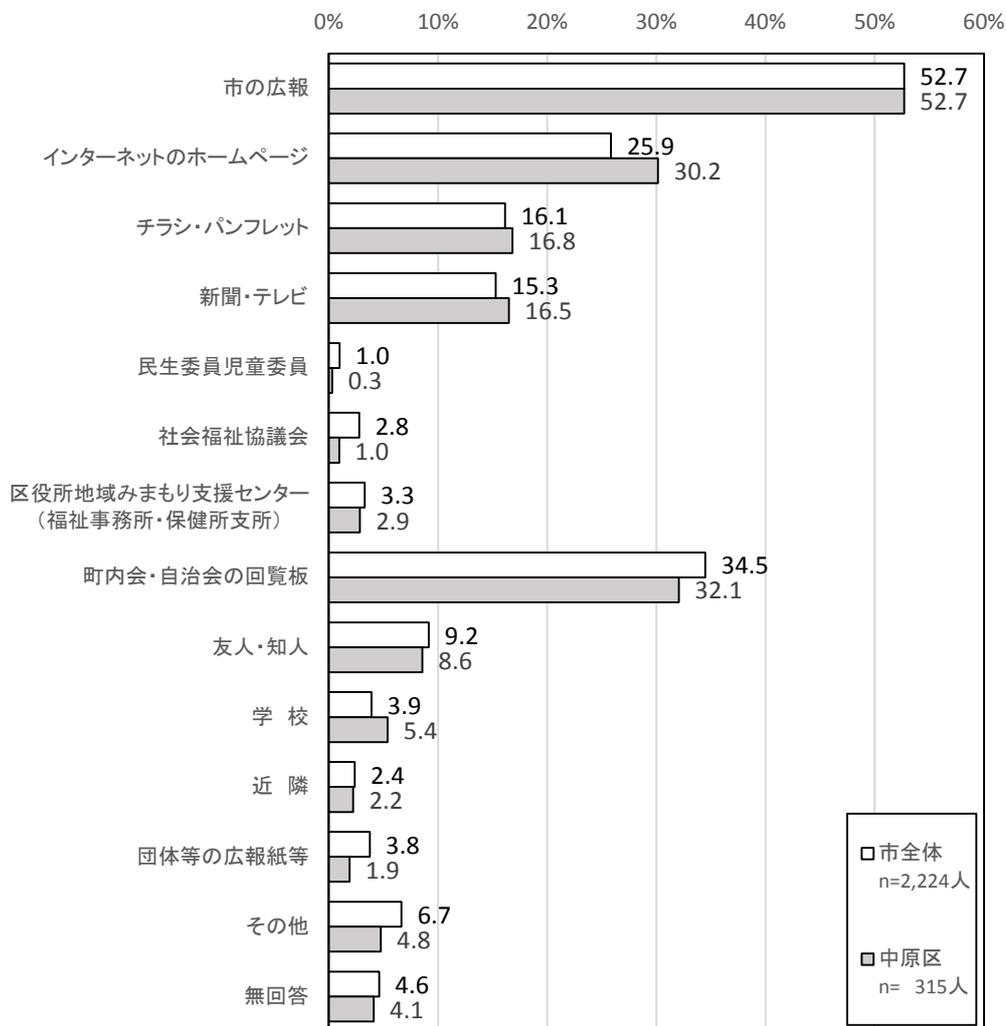
問 33 - 1 《問 33 で「名前も活動内容も知っている」「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」にお答えの方》

あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。（3つまでに○）

中原区では、「身近な相談の場としての機能強化」の割合が41.5%で最も高く、次いで「在宅福祉サービスの充実」（39.6%）、「子育て支援の充実」「ボランティア活動の促進」（18.9%）となっている。



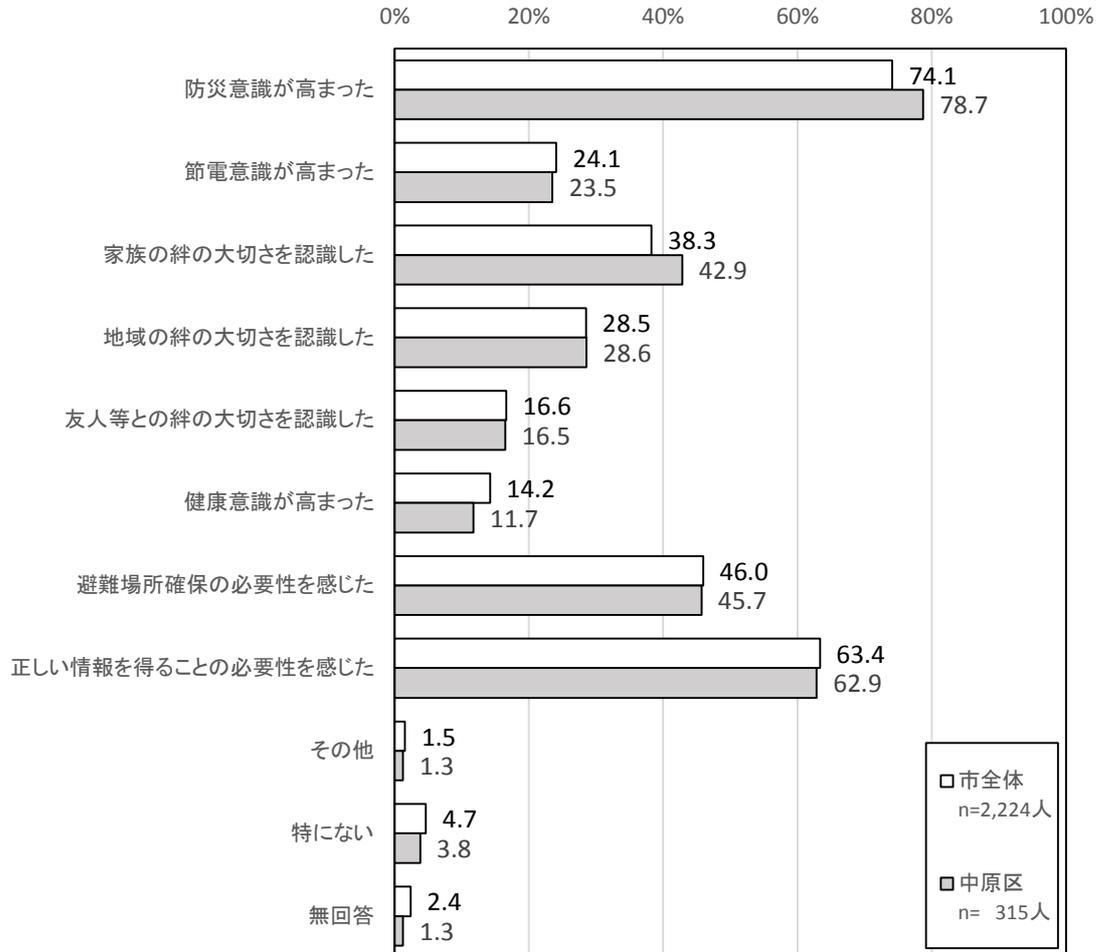
問 34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)
 中原区では、「市の広報」の割合が 52.7%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板」(32.1%)、
 「インターネットのホームページ」(30.2%)となっている。



6. 東日本大震災後の意識の変化について

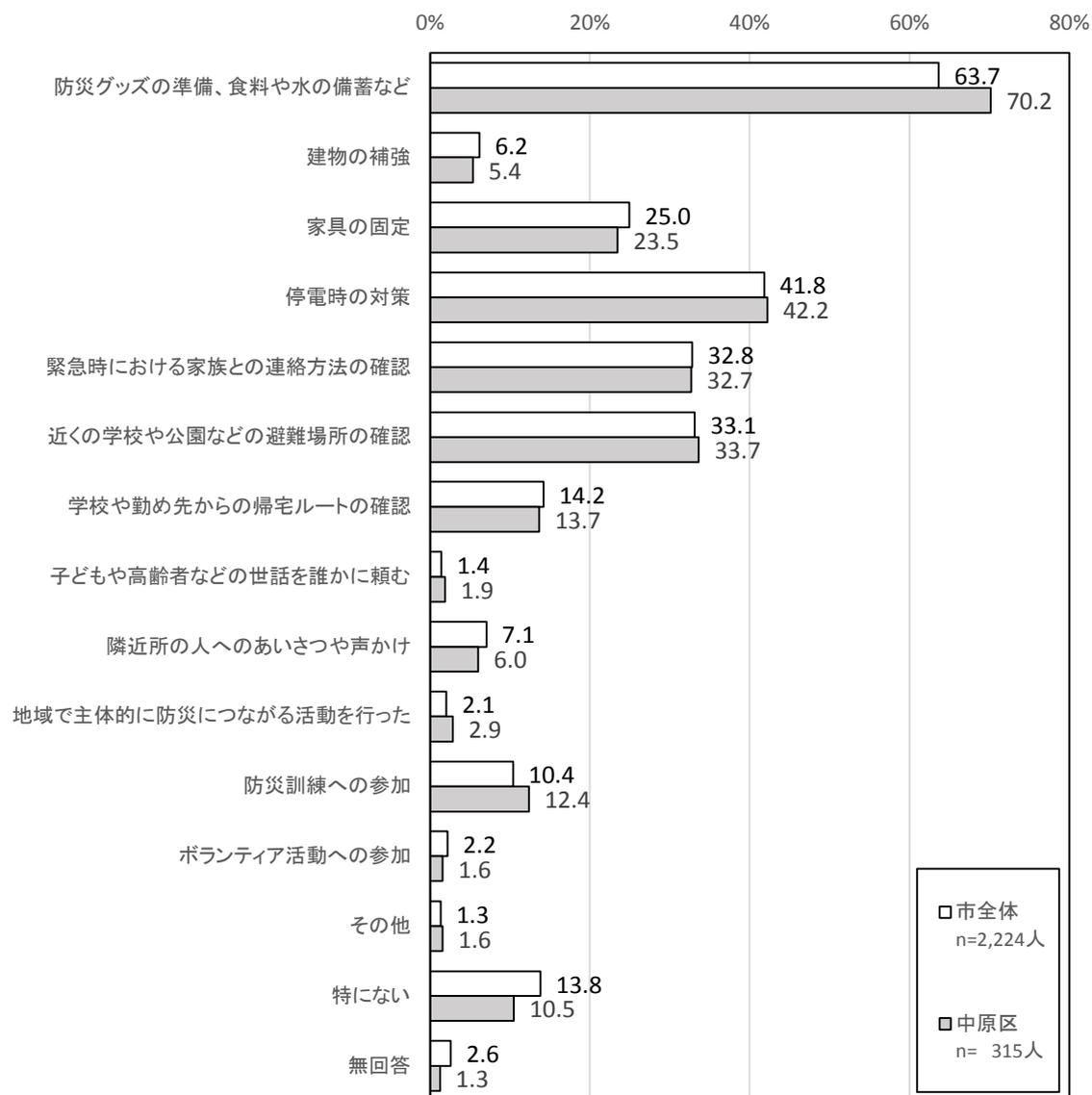
問 36 平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災の後、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

中原区では、「防災意識が高まった」の割合が 78.7%で最も高く、次いで「正しい情報を得ることの必要性を感じた」(62.9%)、「避難場所確保の必要性を感じた」(45.7%)となっている。



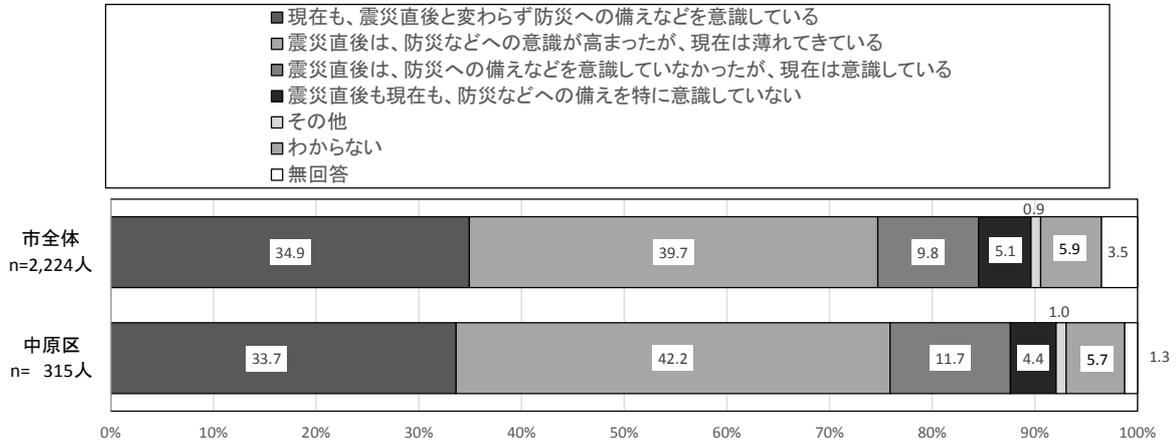
問 37 平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災の後、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「防災グッズの準備、食料や水の備蓄など」の割合が 70.2%で最も高く、次いで「停電時の対策」（42.2%）、「近くの学校や公園などの避難場所の確認」（33.7%）となっている。



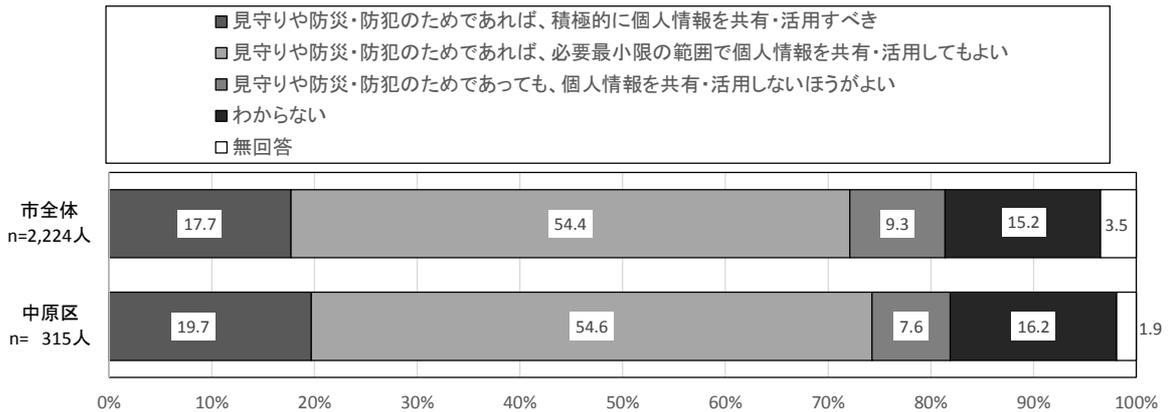
問 38 東日本大震災から8年経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

中原区では、「震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている」の割合が42.2%で最も高く、次いで「現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している」(33.7%)、「震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している」(11.7%)となっている。



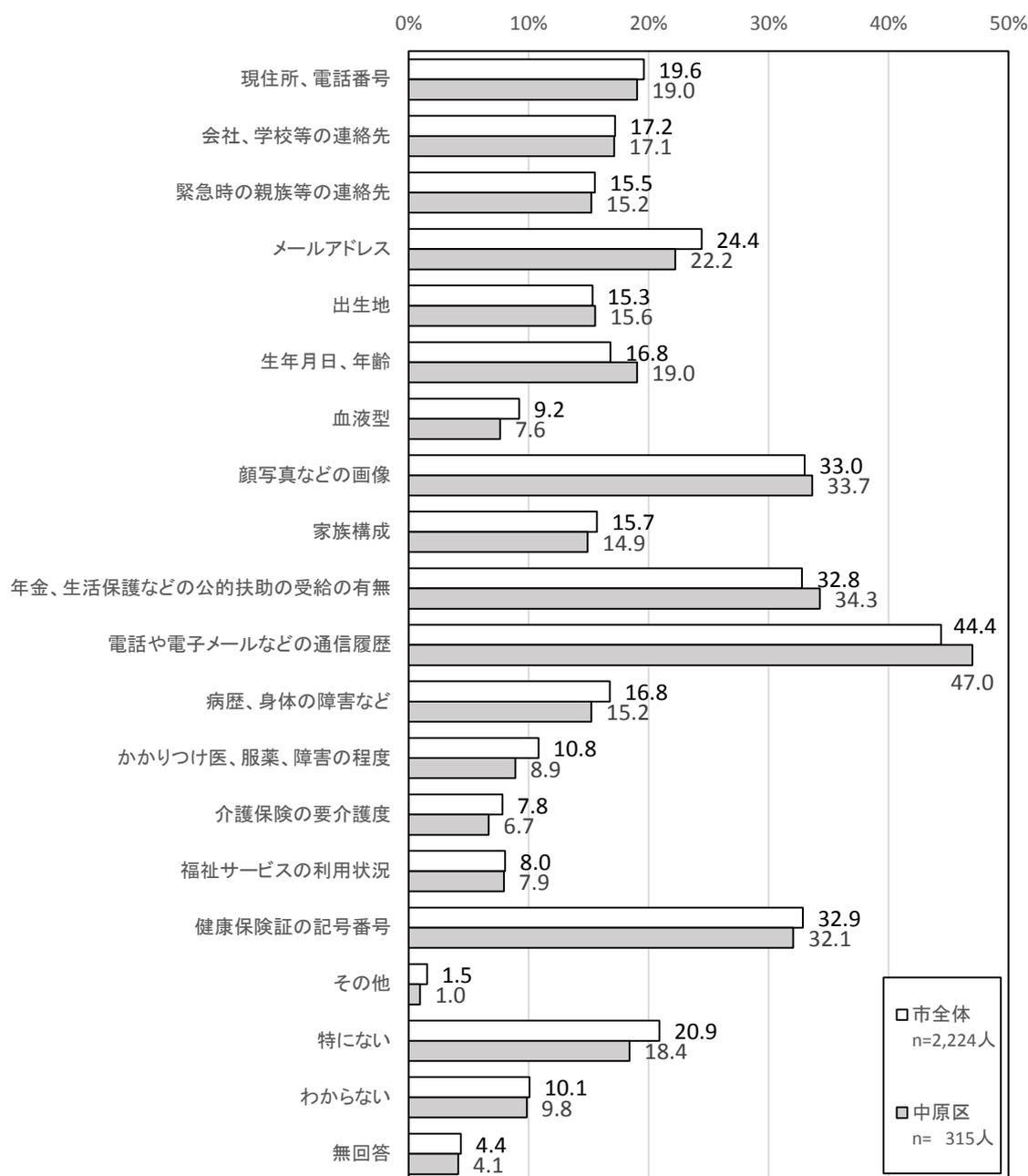
問 39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

中原区では、「見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報を共有・活用すべき」「見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」の合計が74.3%となっている。



問 41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

中原区では、「電話や電子メールなどの通信履歴」の割合が 47.0%で最も高く、次いで「年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無」(34.3%)、「顔写真などの画像」(33.7%)となっており、いずれも市全体を上回っている。

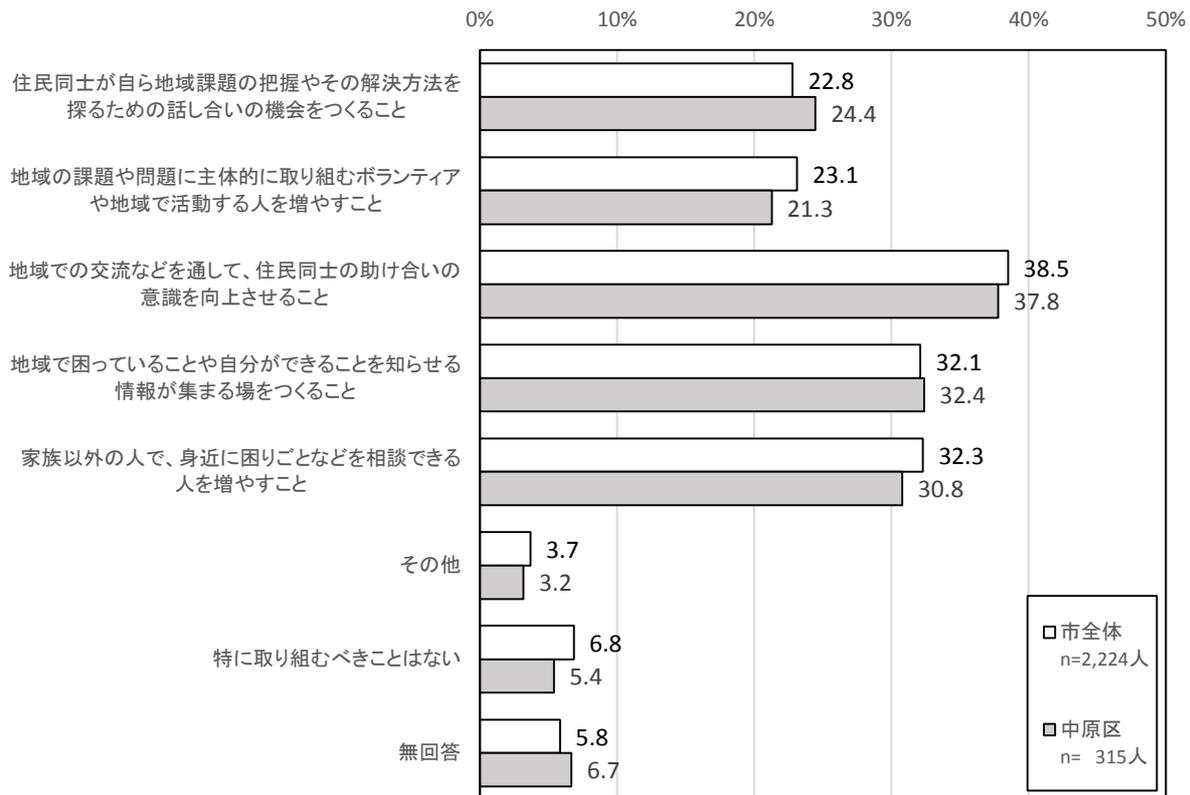


7. 今後の地域福祉の推進について

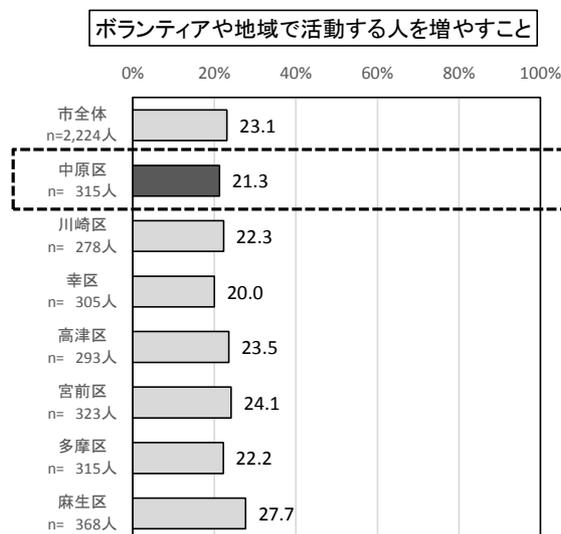
問 42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」の割合が37.8%で最も高く、次いで「地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること」（32.4%）、「家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと」（30.8%）となっている。

市内6区と比較すると、「地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと」については、21.3%で2番目に低い。



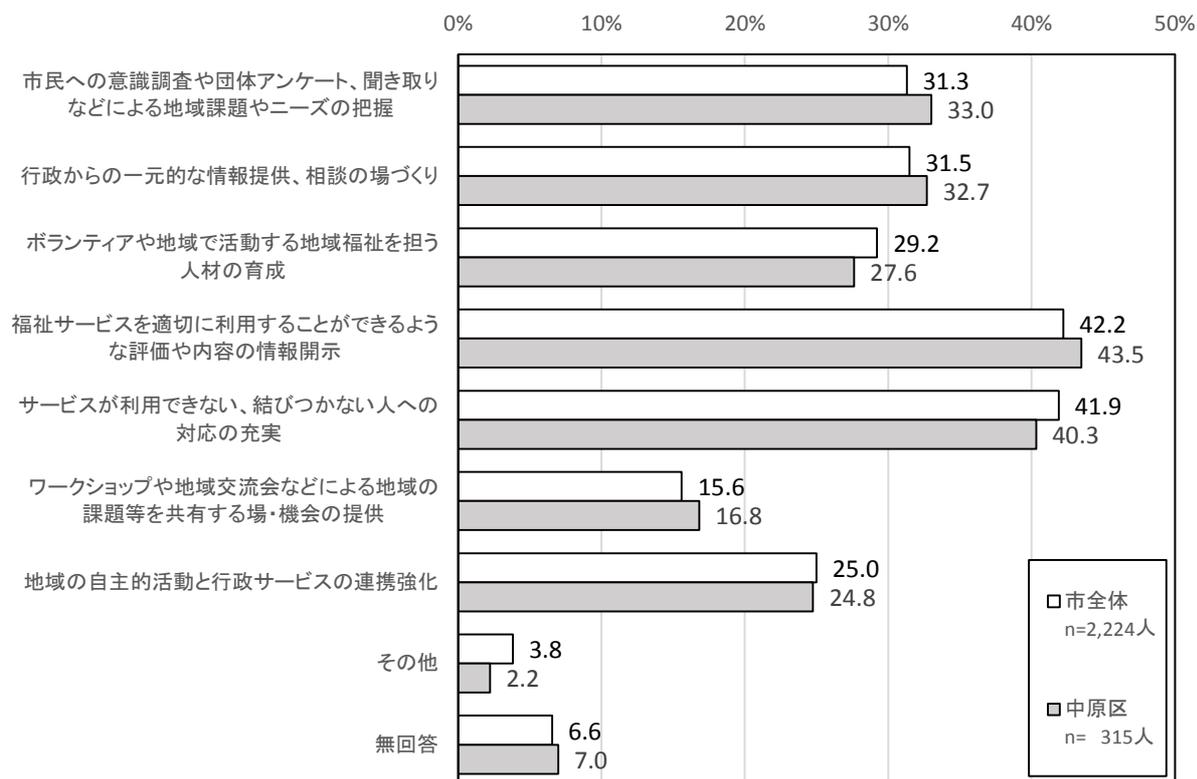
【参考】



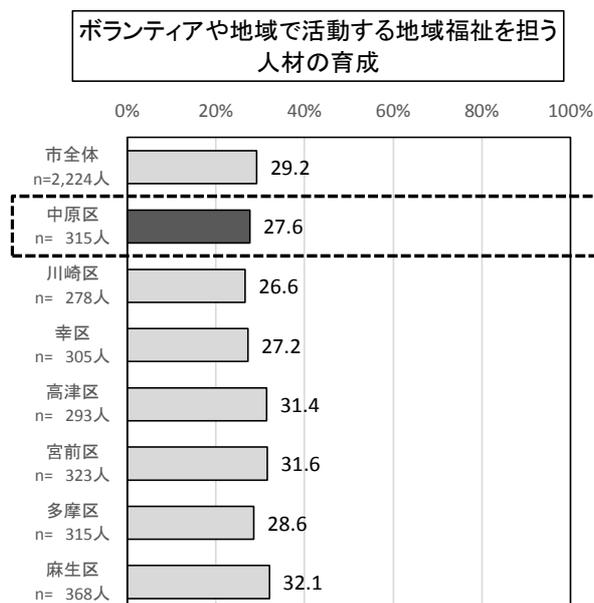
問 43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示」の割合が 43.5%で最も高く、次いで「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」（40.3%）、「市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握」（33.0%）となっている。

市内6区と比較すると、「ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成」については 27.6%で、7区の中で3番目に低い。



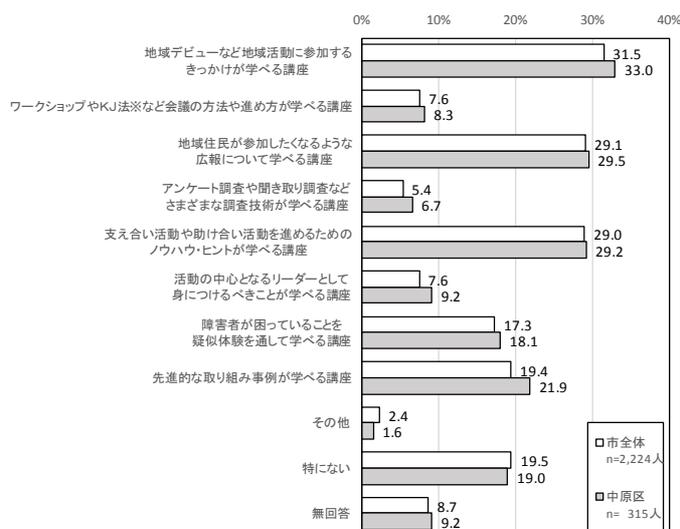
【参考】



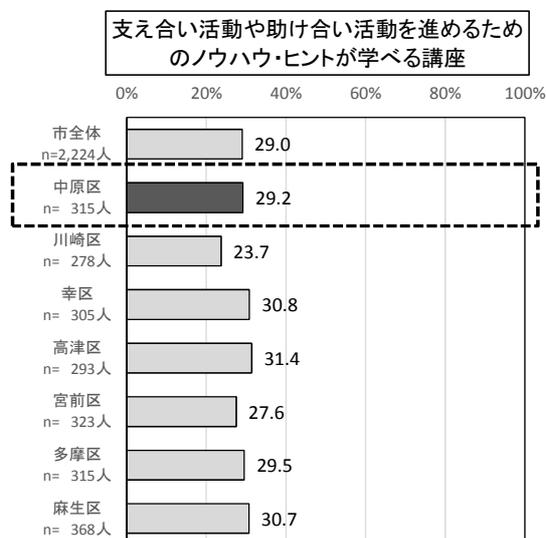
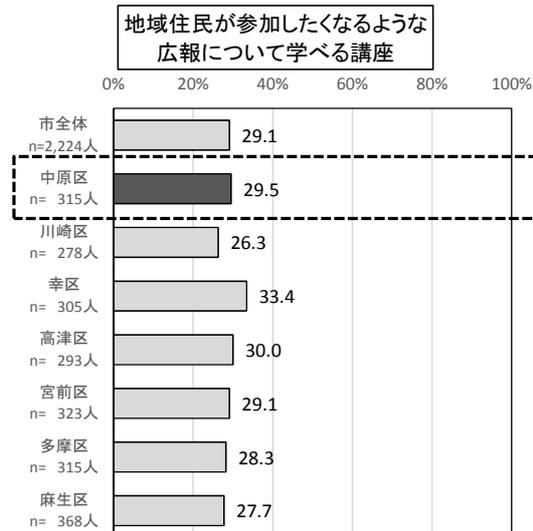
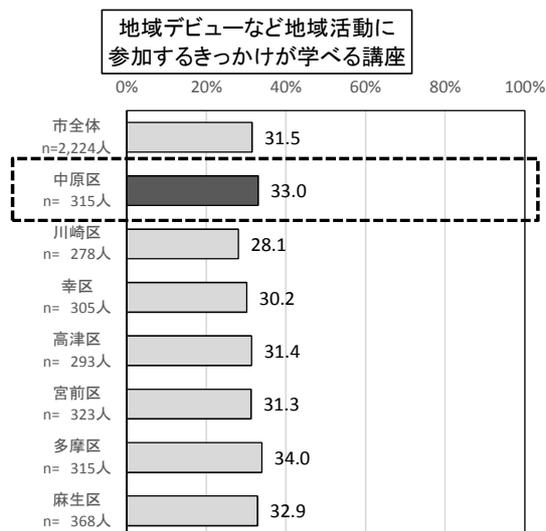
問 44 今後、地域福祉を促進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。（あてはまるものすべてまでに○）

中原区では、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」が33.0%で、市全体（31.5%）を上回っている。

市内6区と比較すると、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」は33.0%で2番目に高い。また、「地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座」は29.5%で3番目に高く、「支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座」は29.2%で3番目に低い。



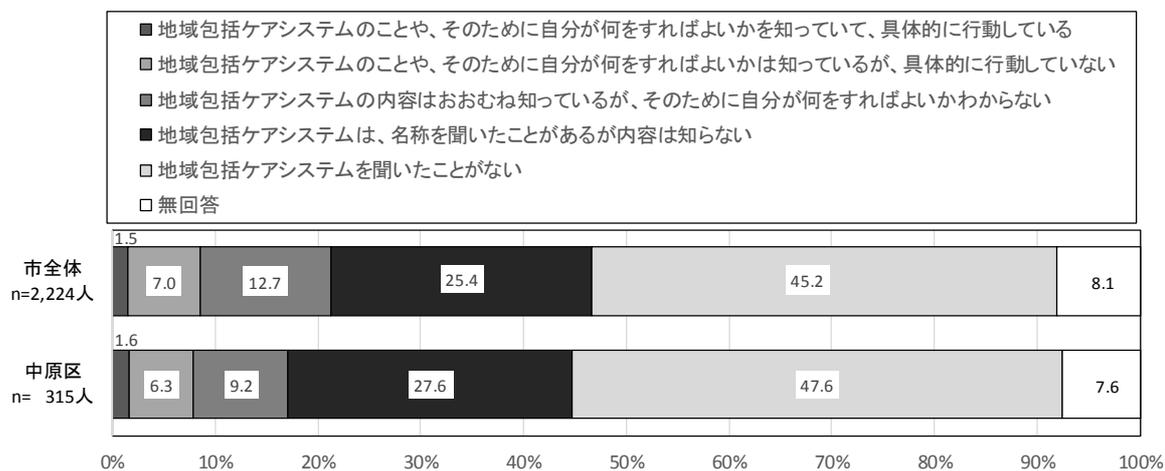
【参考】



問 45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

(1つに○)

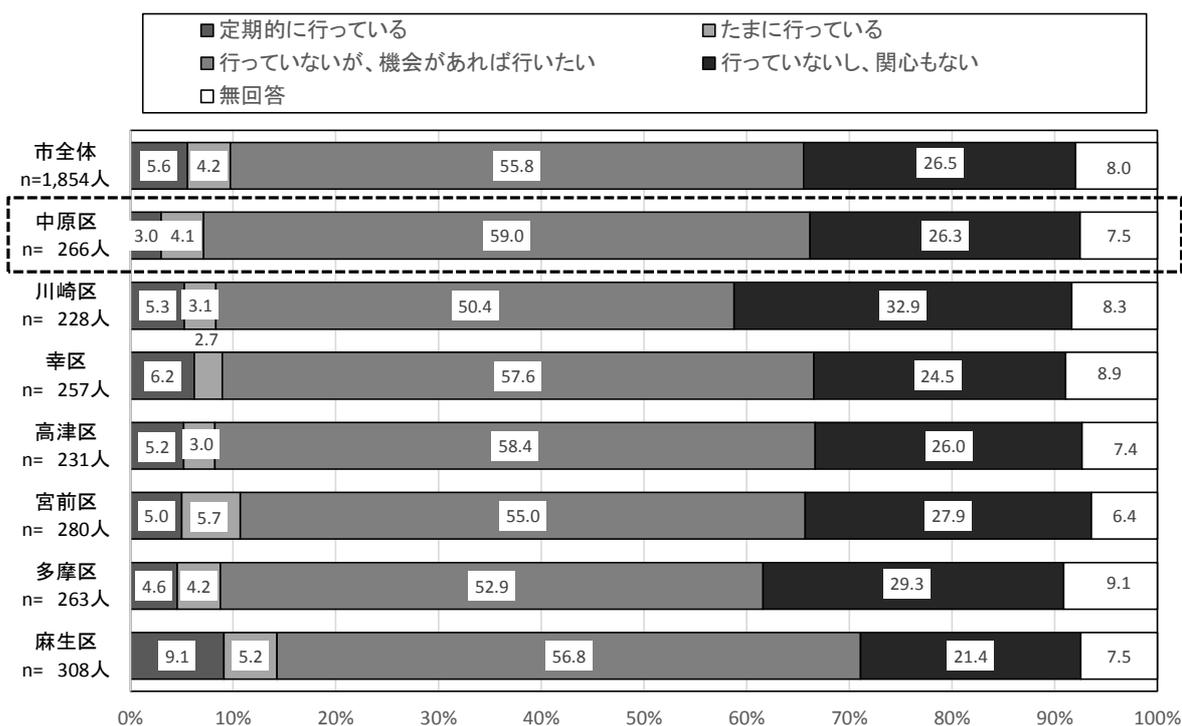
中原区では、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が47.6%で最も高く、次いで「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(27.6%)、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」(9.2%)となっている。



問 45 - 1 《問 45 で「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」にお答えの方》

地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあります。このような行動を行っていますか。(1つに○)

中原区では、「定期的に行っている」「たまに行っている」の割合の合計が7.1%で市全体(9.8%)を下回っている。市内6区と比較すると、「定期的に行っている」、「たまに行っている」の割合の合計は7.1%で最も低くなっている。また、「行っていないし、関心もない」の割合は26.3%で4番目に高い。



8. 自由回答のまとめ ※再掲を含みます

(1) 地域で問題になっていること

地域で問題になっていることとしてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 地域で問題になっていること

意見の内容	件数
1. 子どもに関する問題	30
2. 地域防犯・防災に関する問題	30
3. 高齢者に関する問題	13
4. 地域のつながりに関する問題	15
5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題	15
6. 障害児・者に関する問題	0
7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題	1
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題	3
9. 健康づくりに関する問題	2
10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題	3
11. その他	7

1. 子どもに関する問題（30件）

	内容
1	子どもの通学時の安全。
2	保育園の定員問題が共働きには大変です。
3	公園の遊びの規制がありすぎる(ボール遊びも制限するように立札等が多い)(他4件)。
4	子どもが遊べる公園が少なく小さい(他5件)。
5	保育園が足りない(待機児童)、公園がない、学区割りがあきらかにおかしい。学校前なのに歩道がない(西丸子小)。
6	子どもが小学生になって外で勉強しようと思った時に、図書館が混んでいて席がなさそうなのでどこか勉強するスペースがあればいいと思う(千代田区だと児童館がたくさんあり小学生がそこで勉強していたり、区役所の1階で学生が勉強していたりする)。
7	学校のある学年のクラスは学級崩壊しているにも関わらず、事なかれ主義な態度でそのまま放置。よく聞く話ですが、実際、目のあたりにすると子どもたちも先生もおかしくなっているのに何もしない学校、教育委員会に疑問を感じる。引っ越しも考えている。
8	公園で遊んでも文句を言われることがある。少し成長が遅いことで受け入れを拒否する幼稚園があること。とにかく高い(幼稚園)。
9	毎日子ども達が無事普段通りの生活が送れているか心配。
10	中学卒業まで自己負担なしにしてほしい。インフルエンザ予防接種も子どもこそ助成してほしい。
11	子どもがナナメの関係で関われる人がいない。子どもの社会が狭い。
12	母子、父子家庭でも住みやすい補助など。
13	子どもに対する手当が十分でない。

	内容
14	家の周りに私道ではないがあまり車の往来のない道路があり、そこで子ども達が遊んでいる。公園が自転車で数分のところにあるが、近所に遊び場がないのでそこで遊んでいるのかなと思う。
15	プールがない。
16	子どもの減少により町内会や子ども会のメンバーが不足している。
17	(大きな)公園が少ない為、ボール遊びのできる場所がないので、幼児の散歩が自由にできない。ボール遊びをする児童と同じ空間で遊ぶことになるため、危ない。公園での喫煙者が多く、気持ち良く遊ばせられない。
18	共働きによる子どもとの関わりが減少。
19	待機児童が多いこと。
20	保育園の受け入れなど。
21	40年位前迄は裏通り等で子どもの遊ぶ声が聞こえたが、今ではまず聞かない位子どもが少ない。

2. 地域防犯・防災に関する問題(30件)

	内容
1	防犯カメラの運用、特に経費に関して自治会内に理解が得られない方もいること。
2	登戸の様な事件が起こらないよう、日頃から防犯対策をすべき。もう一度見直し、防犯カメラの増設など。
3	一戸建てに住んでいる為、マンションのように玄関に防犯カメラやオートロックが無いのでとても防犯には不安を感じている(周りはマンションが多い)。
4	先日の台風19号の際に災害時に助け合う為にも日頃から地域の交流が必要ではないかと感じました(他1件)。
5	地域住民のつながりが希薄で、非常時の助け合いや防犯等に不安がある。町内会、子ども会等に加入する支援などの施策がほしい。
6	台風19号の被災にあつてマンション自体は最大の努力と住民活動をしたが行政の対応が全く不十分。
7	いわゆる災害弱者が近所にはいるが、現実に被災した時に個人的な救助に向かう能力はない。また火災が起きた場合、初期消火が可能か否か分からない等の問題がある。
8	災害が起きたり、避難が必要になった時どう対処するとよいかよく分かっていない。自分で情報を集めたりすべきと思っはいるのですが。
9	避難指示が出ても、その人数と収容できるだけのキャパがない(他1件)。又、対応できるマンパワーがなく、より大きな災害につながる。
10	災害(風・水害・地震)などへの対応(他6件)。
11	防災訓練はどの単位ですべきかわからない(10月の台風時の例で考えた)。
12	小学校が近いが、日中あまり人気がないので心配だ。
13	世の中子どもたちが色々な事故やいじめに合っ胸を痛めている。
14	高齢者や子どもたちの安全について。犯罪にまきこまれないようにすること。
15	弱者に対する考えがもう少し必要と感じます。子どもたちに対してもいたずらが減るといいと思います。いざという時、大人たちが守る事が必要で防犯面で不安があります。
16	住まいの周辺で起きている犯罪を知らずに日々を過ごしているのではないかと思うことがある。警察に届けられなかったチカンなどももう少し気軽に(匿名などで)情報を共有できれば気を付けたほうがよい場所が分かる等防げる方法があるのではないかと思う(他2件)。
17	人に対するケアの各々の専門家の確保。

	内容
18	パチンコのお店が多くあり治安が心配になることがある。
19	ホームレスがいる。
20	中原街道、網島街道、多摩堤通のように大型車両が多く交通量が多いので交通事故にとっても不安を感じている。

3. 高齢者に関する問題（13件）

	内容
1	現在住んでいる集合住宅で高齢化が進んでいる（他2件）。将来心配している。
2	高齢者に関心のある講演や集会が少ないように思われる。
3	高齢者の問題は包括センターがいいのか福祉課がいいのかよく分からない。
4	高齢者の介護をしている家庭を知っているがケアサービス等は利用されているようだが近所とのつながりがなさそうです。一人で高齢の親を看る人への心のケアはないのかなと思います。
5	一人暮らしの人に対しての困り事の世話。自分がそうだから同じ一人暮らしの人への日頃からの支援。
6	今は元気ですが、いずれ介護が必要になる時が来た時に不安。どこに相談すべきか等。
7	老人いこいの家が遠くて不便な所、分かりにくい所にある。
8	近くに孤独死の人が2人位（私が知る中で）いたので。
9	介護している家でいつも怒鳴り声がして警察を呼ばれたりもしている。
10	地域に商店が少なく、バス停も遠いため、高齢になって車や自転車を運転できなくなった時、生活が不自由になりそうな気がする。
11	集合住宅での高齢者による事故（火事など）。高齢ドライバーによる事故。

4. 地域のつながりに関する問題（15件）

	内容
1	個人（家族）という意識が高く、地域という感覚が薄い。
2	子どもだけで家にいる時があるので地域で見守ってくれるとありがたい。
3	町内会はあるが参加しづらい。近くに掲示板がない。
4	震災時に近所とのつながりがなく、助け合えない。子どもがいる家庭は行政との関わりがあるが、夫婦2人の場合、何も関わりがないと何の対象にもならない。
5	日頃の交流は面倒でも何か行事等があれば参加するべきだと思います。
6	若い世帯の人が増え、近所づきあいなど一部においてき薄さを感じられる。
7	災害時や防犯面で何か起きたとき頼れる人がいない。
8	有事の際に現状周辺に知り合いがいないことで、孤独死や災害時に1人者や地域に接点がないことで問題が生じる（他1件）。
9	マンションなどの近隣との関わりが少なくいざという時に助け合えない（他2件）。
10	町内会に加入していない方が多い。
11	発言、発信の場というか方法が無い。わからない。
12	転入してからまだ日が浅く、賃貸マンションですが棟の方もあいさつ程度で立ち話もなくまだ何も分かりませんが、漠然と感じていることです。

5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題（15件）

	内容
1	商店街など。気軽に生活習慣病、相談所が欲しいです。
2	町内会の情報を知る媒体が無い。ここに行けば町内の情報が分かったり、メール配信等（web）があると便利。安全な街なのか否かが重要だと思う。
3	住んでいる地域で集会や何か活動しているか知らない。ネット等で住んでいる地区で何をやっているか分かるようにしてほしい。
4	働いている世代や区役所等になかなか出向けない人たちが得る情報量が少ない。
5	不審者や子どもをおびやかす事例がなかなか入ってこない（他1件）。
6	行政のどこに何を相談できてどのような助けがあるのか周知されていない（他1件）。
7	一人一人の考えが良くない。地域活動でやっぱり上に立つ人が少ないので、役所が介入して活動をやりやすい地域にしてほしい。
8	台風の被害時、ハザードマップという冊子が配布されたが前々から用意されていたにも関わらず、今頃渡された。もっと早くから手元に欲しかった。
9	2年前に他県から越してきたので余計ですが全く分かりません。
10	転居して1年3月のため誰も知人がなく、情報も回覧程度のことが問題と思う。
11	本人も気がつかず周りも気がついていない。
12	集団住宅の場合、なかなか情報が回ってこない。
13	第5期川崎市地域福祉計画等を知らなかった。

6. 障害児・者に関する問題（0件）

7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題（1件）

	内容
1	集会場がない。役所の支援や補助がない。

8. 家庭不安や心配ごとをだれにも相談できない人がいるという問題（3件）

	内容
1	外から中原区に来てからの子育て、今は幼稚園で父親が熱心に参加するところなので交流が盛んだが、そういう環境でない場合、簡単に相談できないのではないかな。
2	相談窓口はあるのだろうがそれが分からないから一人で問題を抱えてしまうと考える。
3	精神などの理由から外にでかけられなくなった人にどうすればいいのかアドバイスしてくれる人がいたらいいのと思います。私は今作業所に行っていますがアドバイスしてくれる人がもっといたらよかったなと思います（身だしなみのアドバイスも友人がしてくれました）。

9. 健康づくりに関する問題（2件）

	内容
1	4年前に脊柱管狭窄症になり3回の手術も思うようにいかず自分で薬とリハビリには良いと思う行動をとっています。今は痺れのみで助かっています。
2	生活習慣病が何かと想像した。

10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題（3件）

	内容
1	永住してないが、人の入退去が多いこと。
2	様々な地域から集まってきた様々な年代の様々な境遇の人が暮らしているため、共感が生まれにくく一体感もないと感じること。
3	メディア上で時々孤独死の報道に接すると悲哀感を覚える。

11. その他（7件）

	内容
1	タワーマンションの乱立による、住民コミュニティの分断、まちづくりイメージや、住環境に対する行政の無策。
2	課題だと思いが困っていないので答えようがない。
3	人が信じられないから。
4	時間の面で両立が難しい。昨今、働き方改革への意識は高まっていると思いますが、働き方の多様性が認められている社会とはまだまだ言い難い。経済的な不安もあり心理面の余裕もあまりないと感じる（事例ではありませんが）。
5	川崎市に限定して言えることではなく、ニュースや世間の話題及び新聞記事などから考えて、そのように言える。それらの根底に通じることは幼少期からの育ち方（金銭的に貧しくとも人としてきちっと育つ、育てられた）もよるものとする。「まさに、3つ子の魂（たましい）100まで（一生涯）ということであろう。
6	中原区に人が増えるのはいいが、増えすぎで駅も混雑するし日当りは悪くなるし住みにくくなった。
7	町全体がバリアフリーなど工事を行うことが増えたが、逆に遠回りになどなっている。

(2) 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由としてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

意見の内容	件数
1. 自分自身や子どものため	6
2. 地域交流のため	7
3. 社会貢献	2
4. 健康維持	2
5. 時間に余裕があるから	0
6. 身近で関心・興味がある	5
7. 仕事をしていた或いは資格があるから	4
8. 街の美化のため	2
9. 時間に余裕がなく、できない	3
10. 病気・高齢だからできない	5
11. 参加する気はあるが方法がわからない	4
12. その他	2

1. 自分自身や子どものため（6件）

	内容
1	私自身が望んでいる為。
2	自分が出来る範囲だから。
3	自分が大切だなと思う事、すぐにできそうなことに○を付けました。
4	お互いさま。自分の子や自分自身もお世話になったから。
5	現在養子を養育しているため。
6	子どもの安全のため。

2. 地域交流のため（7件）

	内容
1	自分ができる範囲でともかく人とつながりたい。
2	自治会において活動するため止むを得ず参加する。
3	地域の人達との交流を持ちたい。人の役に立ちたい。
4	互いに支え合う社会活動は重要であると考えから。若い世帯に余裕がないので、何らかの社会的ネットワークを充実させていかないとより安心して暮らせる社会にならないと感じるため。
5	コミュニティを広げたい。
6	1人暮らしで、近所に知り合いもいないので、顔を出すことで知り合いを作り、いざというとき助け合ったり、プライベートを充実させたい。
7	同じ悩みを持っている人と知り合える。イベント毎に参加することで距離が縮まる。

3. 社会貢献（2件）

	内容
1	孤立する可能性のある方々への支援が必要だと思ったから。
2	人の役に立ちたいから。

4. 健康維持（2件）

	内容
1	身体を動かすことが好きだから。
2	健康維持の為。

5. 時間に余裕があるから（0件）

6. 身近で関心・興味がある（5件）

	内容
1	身近な活動のため（他1件）。
2	できそうだから。
3	身近に興味がある。
4	興味がある。多少知識があるから。

7. 仕事をしてきた或いは資格があるから（4件）

	内容
1	福祉の仕事をしてきた時期があり、何かお役に立てることがあると思うため。
2	専門性を生かせるから。
3	自分のスキルを活かせるから。

8. 街の美化のため（2件）

	内容
1	ゴミを拾うと犯罪率が下がると聞くし、何より美しい街に住みたいから。
2	ゴミのない町、通勤、通学に気持ち良く出掛けてもらいたい。

9. 時間に余裕がなく、できない（3件）

	内容
1	常時参加できないため
2	仕事が不規則。
3	40代～50代の人が少ないため、働き盛りの20～30代の方が仕事をしっかりやらないといけない。

10. 病気・高齢だからできない（5件）

	内容
1	透析をしますので時間が決まっているし、なかなか参加できない。
2	難病指定の病気の為、日常生活に支障。健常者の数倍の時間を費やし作業をする。このような状況下、活動はしたくてもできない。
3	高齢者のため（他1件）。

	内容
4	8年前より「うつ」になりマンション内の行事にも出るのが億劫になりました。

11. 参加する気はあるが方法がわからない（4件）

	内容
1	何かしらのボランティア活動をしたいとは思っているが、資格がないものが手を出していいのか不安もある。
2	参加するというのがどういうことを指すのか分からないので。
3	参加してみたいけどその入口（方法）が分からない。内容もくわしく知りたい。
4	無駄な時間を有効に使えたらと思う。

12. その他（2件）

	内容
1	自身も健康で過ごすことを第一に考えている。周りが自身の健康に留意しておけば病気で他人に迷惑をかける負担が少なくなると思うので。
2	自己の状況が分かっていたらそれらの付帯条件を活用し得るかも。

(3) 『地域包括ケアシステム』の取組等に対する意見・要望

『地域包括ケアシステム』の取組等に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『地域包括ケアシステム』の取組等に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	20
2. 市への意見・要望について	9
3. 地域住民とのつながりについて	5
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	3
5. 今自分がやれることがない	0
6. 健康について	0
7. 取組の提案について	5
8. 取組への期待について	8
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	0
11. 多世代や異属性間での交流について	0
12. 地域防犯・防災について	0
13. サービスや手続きについて	0
14. 医療について	1
15. その他	4

1. 取組の周知について（20件）

	年代	内容
1	25～29 歳	特に、20 代 30 代の単身世代は、地域包括ケアシステムの情報が日々の生活の中で入手しにくい。自ら調べようとは思わない（キッカケがない）ので、近隣住民と交流できるイベント情報発信方法を若者向けに再考してほしい。SNS など。
2	30～34 歳	取組の広報が足りないと思います、アンケートが来るまで知らなかった。
3	35～39 歳	もっと TV、CM、インターネットなどで取り上げ、誰もが知っているようにした方がいいと思う。
4	35～39 歳	「地域包括ケアシステム」は、「地域で自分らしい暮らしを最後まで」と目指しているにも関わらず、多くの自治体等では、主に「高齢者」を対象として、計画等を策定していることに疑問を感じる。その点、川崎市においては、障害者や児童も念頭に置き、計画を策定している点は評価できる。「地域包括ケアシステム」について、行政に期待することは、住民一人ひとりが、その言葉やイメージを共有し、誰もが知っている基本的な考え方でできるよう周知していくこと。また、医療や福祉、行政、地域等、それらを構成する団体や人、どこに相談しても必ずつながりあえるような仕組みづくりを進めることです。どちらについても、難しく、時間がかかることだと思うが、実現に向けてがんばっていただきたい。
5	40～44 歳	名前は聞いた事がありますが、内容、活動内容を知らないなので、パンフレット等や市の情報誌などにポイントだけでも書いてほしい。
6	40～44 歳	医療と介護などの知識を幅広く理解している人がとりまとめるか知らせないと意味がよく伝わらないと思います。

	年代	内容
7	45～49 歳	市や区の広報誌などで、ケアシステムについてのことや実際に利用されている事例、使った人の感想などを載せる事を定期的に行って周知してほしい（他 1 件）。
8	45～49 歳	このシステムについてあまり詳しく分からない。たぶんそういう人は沢山います。いったい何を支援してくれるのか。どこに連絡したらいいのか分からない。支援が必要になってから慌てて調べてだと大変なので、全ての市民に知れ渡るようにしてほしい。例えば、学校にチラシを配って子どもに持たせる。病院にチラシを置く。駅にチラシを貼る等。
9	45～49 歳	子育て中は区政だによりによく目を通して地域のイベントにも参加しました。子どもが市内の中学校に通う内は周りとのつき合いもさかんでしたが、成長するにつれ疎遠になりつつあります。この先、何らきっかけがなければ恐らく地域の活動には参加しにくい状況と思われる。高層マンションが立ち並び若年層が入り混じり、増々近隣との付き合いがなくなりそうです。この活動がもっと公になるよう呼びかけて欲しいと思います。
10	45～49 歳	情報を持っていないので、どこへ行けば有益な情報が得られるのか知りたい。
11	50～54 歳	住民の認知度を上げる活動が必要ではないかと思います（他 3 件）。
12	50～54 歳	今日のケアシステムの動き、などメルマガ登録をさせ、システム自体を知ってもらおう。ケアシステムの定期的な講座やイベントを行う。
13	60～64 歳	「この取組等」があまりにも周知されていない。せっかくこのようなアンケートもとっているのだから、少しでも多くの人に分かりやすく情報を出して欲しい。
14	75 歳以上	どういう活動しているのか、分かりやすく市民に知らせてほしい。
15	75 歳以上	身近なシステムとしての広報が全く不足している。
16	75 歳以上	今回このアンケート用紙で初めて知った。今後新しく転居した人達に川崎市及び各区の概要の説明会等であるいは書類で PR 願いたい。

2. 市への意見・要望について（9 件）

	年代	内容
1	30～34 歳	高齢者への支援は不要。
2	35～39 歳	漠然としていて今一つ意味が伝わらない。もう少し具体的に伝えないと市民に浸透しないかと。「より良い街づくりをしましょう」ぐらいのレベルの言葉に聞こえる。
3	40～44 歳	実際に実現すると素晴らしいことだが、計画倒れになりそうな気がする。どこも人手不足で、市民も自分の生活だけで必死だし、市役所の方々も自分の業務で大変なはず。ボランティアの人＝市民に頼らざるを得ないのもマンパワーが足りないからかと思われる。いっそのことボランティアを報酬制にする、あるいはポイント制にして見返りを作るシステムにすれば、すき間時間をあてたいという協力的な人が出てくると思う。善意を期待するのは少々時代遅れだと思う。
4	40～44 歳	今、必要としている世代（5、60 代の子と、8、90 代の親）に分かりやすく行き届く情報発信ができているのだろうかと感じますが、私もよく分かっていないので（今のところ、生活が安定している為）。積極的に地域とのつながりや情報交換を行いたいと思う。
5	50～54 歳	説明をよく知りません。

	年代	内容
6	50～54 歳	転勤族で数年（3-5 年）の居住期間の人でも何かできる利用できるものがあれば、関心がもてると思います。又、自治会や、住民の組合等もないアパートに市外から転居してきた場合、ゴミ捨てのルールさえもよく分からない方も多い状況なので、地域包括ケアシステムの取組等はなおさら関心も持てないし情報も入ってこない。
7	60～64 歳	まだ意識、理解が高まっていない。現実はなかなか難しい。
8	65～69 歳	もっと役所が働いてほしい。
9	75 歳以上	高齢化が進むにつれて、一人暮らしの人への対応の仕方（計らい）の難しさ。積極的に接遇するべきか、あるいは差出がましくない程度に対応するか悩むところだが、孤独（死）に繋がってはならない。状況判断が大切です。

3. 地域住民とのつながりについて（5件）

	年代	内容
1	45～49 歳	地域でいろいろ実施できるのは理想ではあるが、自分の事で手いっぱいである人たちに対してどのように地域活動を推進していくのかは難しい。また、どのように実施していけばいいのかが分からない。
2	45～49 歳	子育て中は区政だよりによく目を通して地域のイベントにも参加しました。子どもが市内の中学校に通う内は周りとのつき合いもさかんでしたが、成長するにつれ疎遠になりつつあります。この先、何らきっかけがなければ恐らく地域の活動には参加しにくい状況とされます。高層マンションが立ち並び若年層が入り混じり、増々近隣との付き合いがなくなりそうです。この活動がもっと公になるよう呼びかけて欲しいと思います。
3	45～49 歳	地域交流などほとんどが母たちの役割のような気がするので、父親たちにももっと交流に参加してもらいたいです。
4	50～54 歳	転勤族で数年（3-5 年）の居住期間の人でも何かできる利用できるものがあれば、関心がもてると思います。又、自治会や、住民の組合等もないアパートに市外から転居してきた場合、ゴミ捨てのルールさえもよく分からない方も多い状況なので、地域包括ケアシステムの取組等はなおさら関心も持てないし情報も入ってこない。
5	65～69 歳	若い人たちに関心を持ってもらうようにすることが難しいと思う。マンションが多い所で70才近い夫婦のみの生活では地域とも接点がほとんどないので（小中などの子どもがいれば横のつながりがあるだろうが）まずそのシステムにどう関わらせるかが問題。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（3件）

	年代	内容
1	40～44 歳	誰もが参加しやすい、楽しく取りくめるものがあれば、うちの母や兄も参加できるのかなと思いました。私もデイケアを卒業してしまって作業所だけになってしまったので、何か楽しめるような場があれば参加したいです。溝の口ばかり行っているのもっと近い、小杉や元住吉辺りにも行きたいです。

	年代	内容
2	45～49 歳	子育て中は区政だよりによく目を通して地域のイベントにも参加しました。子どもが市内の中学校に通う内は周りとのつき合いもさかんでしたが、成長するにつれ疎遠になりつつあります。この先、何らきっかけがなければ恐らく地域の活動には参加しにくい状況と思われます。高層マンションが立ち並び若年層が入り混じり、増々近隣との付き合いがなくなりそうです。この活動がもっと公になるよう呼びかけて欲しいと思います。
3	75 歳以上	高齢のため運動参加が出来ない。

5. 今自分がやれることがない（0件）

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案について（5件）

	年代	内容
1	35～39 歳	聞いた事がないので取組を積極的に発信すべき。どのくらい理解されているのか確認も必要。発信はポスティング程で行えばよい。
2	35～39 歳	「地域包括ケアシステム」は、「地域で自分らしい暮らしを最後まで」と目指しているにも関わらず、多くの自治体等では、主に「高齢者」を対象として、計画等を策定していることに疑問を感じる。その点、川崎市においては、障害者や児童も念頭に置き、計画を策定している点は評価できる。「地域包括ケアシステム」について、行政に期待することは、住民一人ひとりが、その言葉やイメージを共有し、誰もが知っている基本的な考え方とできるよう周知していくこと。また、医療や福祉、行政、地域等、それらを構成する団体や人、どこに相談しても必ずつながりあえるような仕組みづくりを進めることです。どちらについても、難しく、時間がかかることだと思うが、実現に向けてがんばっていただきたい。
3	50～54 歳	今日のケアシステムの動き、などメルマガ登録をさせ、システム自体を知ってもらう。ケアシステムの定期的な講座やイベントを行う。
4	55～59 歳	ハローワークと連携して、高齢者に対する雇用、パート、アルバイトを促進する取組を進めるべきと思います。
5	65～69 歳	弱者・高齢者・障害のある方など公的サービスによる援護を必要とする方々については、公的機関が身体情報や連絡先などの個人情報を把握しておいて必要な場合に限って活用することが可能となるように日頃から情報収集と同意形成に努めるべきと考えます。

8. 取組への期待について（8件）

	年代	内容
1	30～34 歳	高齢者への支援は不要。

	年代	内容
2	35～39 歳	「地域包括ケアシステム」は、「地域で自分らしい暮らしを最後まで」と目指しているにも関わらず、多くの自治体等では、主に「高齢者」を対象として、計画等を策定していることに疑問を感じる。その点、川崎市においては、障害者や児童も念頭に置き、計画を策定している点は評価できる。「地域包括ケアシステム」について、行政に期待することは、住民一人ひとりが、その言葉やイメージを共有し、誰もが知っている基本的な考え方とできるよう周知していくこと。また、医療や福祉、行政、地域等、それらを構成する団体や人、どこに相談しても必ずつながりあえるような仕組みづくりを進めることです。どちらについても、難しく、時間がかかることだと思うが、実現に向けてがんばっていただきたい。
3	40～44 歳	成功、失敗はやってみないとわからないがフィードバックし、より良くいかされることを期待する。
4	45～49 歳	情報を持っていないので、どこへ行けば有益な情報が得られるのか知りたい。
5	45～49 歳	小さいころはよくても、といった不安はあります。一定のサービスを受けていれば情報が来るものなのか心配です。(流れとか) もう少しホームページ等で分かりやすく書いてもらえたらと思います。
6	50～54 歳	名称は聞いた事あるが実際の内容は分からないので身近で知れる方法や場所を安易に全ての人に伝わる様になると良いと思います。
7	65～69 歳	高血圧に気を付ける様見守ってもらっている。ありがたいと思っています。
8	75 歳以上	足が不自由で遠くの行動ができないのが残念です。

9. 守秘義務について (0 件)

10. 相談窓口について (0 件)

11. 多世代や異属性間での交流について (0 件)

12. 地域防災・防犯について (0 件)

13. サービスや手続きについて (0 件)

14. 医療について (1 件)

	年代	内容
1	45～49 歳	ポストアキュートを担う医療機関が少ない。

15. その他（4件）

	年代	内容
1	40～44 歳	実際に実現すると素晴らしいことだが、計画倒れになりそうな気がする。どこも人手不足で、市民も自分の生活だけで必死だし、市役所の方々も自分の業務で大変なはず。ボランティアの人＝市民に頼らざるを得ないのもマンパワーが足りないからかと思われる。いっそのことボランティアを報酬制にする、あるいはポイント制にして見返りを作るシステムにすれば、すき間時間をあてたいという協力的な人が出てくると思う。善意を期待するのは少々時代遅れだと思う。
2	40～44 歳	まずは web サイト等拝見してみます。
3	75 歳以上	1.若手の有資格者の増加。資格があっても、人間的な要素が重要。 2.高齢で足腰が弱体化してくる。希望の部屋に出向いて下さるようなシステムにしてほしい。 3.どのような仕事であれまずは人間力。教育の質を向上させる。
4	75 歳以上	高齢化が進むにつれて、一人暮らしの人への対応の仕方の難しさ。積極的に接遇すべきか、あるいは差出がましくない程度に対応するか悩むところだが、孤独（死）に繋がってはならない。状況判断が大切です。

(4) 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

『川崎市地域福祉計画』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	31
2. 市への意見	12
3. 地域住民とのつながりについて	10
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	9
5. 今自分がやれることはない	0
6. 健康について	0
7. 取組の提案について	6
8. 取組への期待について	17
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	0
11. 地域防犯・防災について	0
12. サービスや手続きについて	0
13. 医療について	1
14. その他	6

1. 取組の周知について (31件)

	年代	内容
1	35～39歳	「地域包括ケアシステム」は、「地域で自分らしい暮らしを最後まで」と目指しているにも関わらず、多くの自治体等では、主に「高齢者」を対象として、計画等を策定していることに疑問を感じる。その点、川崎市においては、障害者や児童も念頭に置き、計画を策定している点は評価できる(他3件)。
2	35～39歳	もっとTV、CM、インターネットなどで取り上げ、誰もが知っているようにした方がいいと思う。
3	40～44歳	医療と介護などの知識を幅広く理解している人がとりまとめるか知らせないと意味がよく伝わらないと思います。
4	40～44歳	名前は聞いた事がありますが、内容、活動内容を知らないの、パンフレット等や市の情報誌などにポイントだけでも書いてほしい。
5	45～49歳	小さいころはよくても、といった不安はあります。一定のサービスを受けていれば情報が来るものなのか心配です(他2件)。
6	45～49歳	情報を持っていない(他2件)。
7	45～49歳	この活動がもっと公になるよう呼び掛けてほしいと思います(他3件)。
8	45～49歳	市や区の広報誌などで、ケアシステムについてのことや実際に利用されている事例、使った人の感想などを載せる事を定期的に行って周知してほしい。
9	50～54歳	名称は聞いた事あるが実際の内容は分からない(他2件)。
10	50～54歳	全く言葉を聞いたことが無い。もっと認知度を上げる取組をしてほしい。
11	50～54歳	住民の認知度を上げる活動が必要ではないかと思えます。
12	50～54歳	今日のケアシステムの動き、などメルマガ登録をさせ、システム自体を知ってもらおう(他2件)。

	年代	内容
13	55～59 歳	地域包括ケアについて知らない人が多いのでは。もっと広報していくべきだと思います。
14	60～64 歳	「この取組等」があまりにも周知されていない。せっかくこのようなアンケートもとっているのに、少しでも多くの人に分かりやすく情報を出して欲しい。
15	75 歳以上	どういう活動しているのか、分かり易く市民に知らせてほしい。
16	75 歳以上	身近なシステムとしての広報が全く不足している。
17	75 歳以上	今回このアンケート用紙で初めて知った。今後新しく転居した人達に川崎市及び各区の概要の説明会等であるいは書類で PR 願いたい。

2. 市への意見（12件）

	年代	内容
1	40～44 歳	今、必要としている世代（5、60 代の子と、8、90 代の親）に分かりやすく行き届く情報発信ができているのだろうかと感じますが、私もよく分かっていないので（今のところ、生活が安定している為）。積極的に地域とのつながりや情報交換を行いたいと思う。
2	40～44 歳	実際に実現すると素晴らしいことだが、計画倒れになりそうな気がする（他2件）。
3	50～54 歳	何かできる利用できるものがあれば、関心が持てると思います（他2件）。
4	50～54 歳	説明をよく知りません。
5	65～69 歳	もっと役所が働いてほしい。
6	75 歳以上	状況判断が大切です（他2件）。

3. 地域住民とのつながりについて（10件）

	年代	内容
1	45～49 歳	地域でいろいろ実施できるのは理想ではあるが、自分の事で手いっぱいである人たちに対してどのように地域活動を推進していくのかは難しい。また、どのように実施していけばいいのかが分からない。
2	45～49 歳	子育て中は区政だよりによく目を通して地域のイベントにも参加しました。子どもが市内の中学校に通う内は周りとのつき合いもさかんでしたが、成長するにつれ疎遠になりつつあります。この先、何らきっかけがなければ恐らく地域の活動には参加しにくい状況とと思われます（他3件）。
3	45～49 歳	地域交流などほとんどが母たちの役割のような気がするので、父親たちにももっと交流に参加してもらいたいです。
4	50～54 歳	自治会や、住民の組合等もないアパートに市外から転居してきた場合、ゴミ捨てるのルールさえもよく分からない方も多い状況なので、地域包括ケアシステムの取組等はなおさら関心も持てないし情報も入ってこない（他2件）。
5	65～69 歳	若い人たちに興味を持ってもらうようにすることが難しいと思う。マンションが多い所で70才近い夫婦のみの生活では地域とも接点がほとんどないので（小中などの子どもがいれば横のつながりがあるだろうが）まずそのシステムにどう関わらせるかが問題。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（9件）

	年代	内容
1	25～29 歳	地域のイベントがもっと公になるよう呼びかけて欲しいと思います（他3件）。
2	40～44 歳	高齢のため運動参加が出来ない。
3	45～49 歳	住民と交流できるイベント情報発信方法を若者向けに再考してほしい。SNS など（他2件）。
4	75 歳以上	誰もが参加しやすい、楽しく取りくめるものがあれば、うちの母や兄も参加できるのかなと思いました。私もデイケアを卒業してしまって作業所だけになってしまったので、何か楽しめるような場があれば参加したいです。溝の口ばかり行っているのもっと近い、小杉や元住吉辺りにも行きたいです。

5. 今自分がやれることはない（0件）

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案について（6件）

	年代	内容
1	35～39 歳	聞いた事がないので取組を積極的に発信すべき。どのくらい理解されているのか確認も必要。発信はポスティング程で行なえばよい。
2	35～39 歳	川崎市においては、障害者や児童も念頭に置き、計画を策定している点は評価できる。難しく、時間がかかることだと思うが、実現に向けてがんばっていただきたい（他3件）。
3	55～59 歳	ハローワークと連携して、高齢者に対する雇用、パート、アルバイトを促進する取組を進めるべきと思います。

8. 取組への期待について（17件）

	年代	内容
1	30～34 歳	高齢者への支援は不要。
2	35～39 歳	行政に期待することは、住民一人ひとりが、その言葉やイメージを共有し、誰もが知っている基本的な考え方とできるよう周知していくこと。また、医療や福祉、行政、地域等、それらを構成する団体や人、どこに相談しても必ずつながりあえるような仕組みづくりを進めることです。どちらについても、難しく、時間がかかることだと思うが、実現に向けてがんばっていただきたい（他3件）。
3	40～44 歳	成功、失敗はやってみないとわからないがフィードバックし、より良いかされることを期待する。
4	45～49 歳	もう少しホームページ等で分かりやすく書いてもらえたらと思います（他2件）。
5	45～49 歳	どこへ行けば有益な情報が得られるのか知りたい（他2件）。
6	50～54 歳	身近で知れる方法や場所を安易に全ての人に伝わる様になると良いと思います（他2件）。
7	65～69 歳	高血圧に気を付ける様見守ってもらえるとありがたいと思っています。
8	75 歳以上	足が不自由で遠くの行動ができないのが残念です。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（0件）

11. 地域防犯・防災について（0件）

12. サービスや手続きについて（0件）

13. 医療について（1件）

	年代	内容
1	45～49 歳	ポストアキュートを担う医療機関が少ない。

14. その他（6件）

	年代	内容
1	40～44 歳	実際に実現すると素晴らしいことだが、計画倒れになりそうな気がする。どこも人手不足で、市民も自分の生活だけで必死だし、市役所の方々も自分の業務で大変なはず。ボランティアの人＝市民に頼らざるを得ないのもマンパワーが足りないからかと思われる。いっそのことボランティアを報酬制にする、あるいはポイント制にして見返りを作るシステムにすれば、すき間時間をあてたいという協力的な人が出てくると思う。善意を期待するのは少々時代遅れだと思う。
2	40～44 歳	まずは web サイト等拝見してみます。
3	75 歳以上	1.若手の有資格者の増加。資格があっても、人間的な要素が重要。 2.高齢で足腰が弱体化してくる。希望の部屋に出向いて下さるようなシステムにしてほしい。 3.どのような仕事であれまずは人間力。教育の質を向上させる。
4	75 歳以上	孤独（死）に繋がってはならない。状況判断が大切です（他2件）。

資料

アンケート調査票

地域の生活課題に関する調査

みなさまには、日頃から川崎市の市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。現在、本市では『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに向け、市民や団体活動を行っている方々の（意識）調査を実施しております。

この（意識）調査は、『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに関わる調査の一つとして、無作為に選ばせていただきました市内在住の20歳以上の方を対象に、地域における生活課題などについての意識やご意見、ご要望をおたずねするものです。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用することを目的としていますので、他の目的に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月 川崎市長 福田 紀彦

【記入にあたってのお願い】

1. ご回答は、最初から順番にお答えください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
3. 質問によっては、○をつける選択肢の番号を「1つに○」「あてはまるものすべてに○」などと指定している場合は、指定の範囲内で○をつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合には、お手数ですが（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
4. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（→）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。
5. ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**12月20日（金）まで**にポストに投函してください。

【調査結果の公表】

この調査の結果は、地域福祉実態調査概況のうち「地域の生活課題に関する調査概況」として、川崎市ホームページ（<http://www.city.kawasaki.jp/>）に掲載します。

本調査について、ご不明な点・ご質問等がございましたら、お問い合わせください。

■お問い合わせ先

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域福祉担当

電話番号：044-200-2626（直通）

FAX：044-200-3926

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

E-mail：40keasui@city.kawasaki.jp

【最初に、あなたご本人やご家族のことについておたずねします】

問1 性別を教えてください。(1つに〇)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに〇)

1. 20～24歳	5. 40～44歳	9. 60～64歳
2. 25～29歳	6. 45～49歳	10. 65～69歳
3. 30～34歳	7. 50～54歳	11. 70～74歳
4. 35～39歳	8. 55～59歳	12. 75歳以上

問3 お住まいはどこですか。(1つに〇)

1. 川崎区(区役所管内)	7. 高津区(区役所管内)
2. 川崎区(大師支所管内)	8. 高津区(橋出張所管内)
3. 川崎区(田島支所管内)	9. 宮前区(区役所管内)
4. 幸区(区役所管内)	10. 宮前区(向丘出張所管内)
5. 幸区(日吉出張所管内)	11. 多摩区(区役所管内)
6. 中原区	12. 多摩区(生田出張所管内)
	13. 麻生区

問4 お住まいの町名をご記入ください。

※〇丁目と続く場合は数字を【 】に記入してください。

町名		丁目	【 】丁目
----	--	----	-------

問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに〇)

1. 1年未満	3. 3～5年未満	5. 10～20年未満
2. 1～3年未満	4. 5～10年未満	6. 20年以上

問6 現在のお住まいの形態を教えてください。(1つに〇)

1. 持ち家(一戸建て)	4. 借家(マンション・アパート・公団・下宿等)
2. 持ち家(マンション・団地)	5. 社宅・寮・公務員住宅
3. 借家(一戸建て)	6. その他()

問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 祖父母	5. 兄弟姉妹	9. いない(一人暮らし)
2. 父	6. 子	10. その他
3. 母	7. 孫	()
4. 配偶者	8. その他親族	

問8 一緒に暮らしているご家族(あなたを含む)のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族の中に65歳以上の方がいる
2. 家族の中に介護認定を受けている方がいる
3. 家族の中に障害者手帳(身体・療育・精神保健福祉)の交付を受けている方がいる
4. 家族の中に小学校就学前の子どもがいる
5. 家族の中に小学生の子どもがいる
6. 家族の中に中学生以上の18歳未満の子どもがいる
7. いずれにも該当する家族がいない

問9 就業の状況はどれに該当しますか。(ア及びイまたはウそれぞれ1つに○)

ア 就業状況

1. 就業している
2. 就業していない

イ 就業形態

1. 常勤・フルタイム
2. パート・アルバイト(通勤あり)
3. パート・アルバイト(通勤なし、内職等)
4. その他()

ウ 就業していない理由

1. 家事専業等	3. 学 生
2. 定年退職者	4. その他()

問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

1. 非常に健康
2. ほぼ健康
3. あまり健康でない
4. 健康でない

問11 あなたは現在、健康上の問題で6か月以上の期間にわたり、日常生活に何か影響がありますか。(1つに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. ある (→問11-1へ進む)2. ない |
|---|

《問11-1は、問11で「1. ある」とお答えの方におたずねします》

問11-1 それはどのようなことに影響がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 日常生活動作(起床、衣服着脱、食事、入浴など)に影響がある2. 外出(時間や作業量などが制限される)に影響がある3. 仕事、家事(時間や作業量が制限される)に影響がある4. 運動(スポーツを含む)に影響がある5. その他() |
|--|

【「川崎市地域福祉計画」についておたずねします】

川崎市では、川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築をめざして、平成30年3月に「市民一人ひとりが共に支え合い安心して暮らせる ふるさとづくり」を基本理念とする『第5期川崎市地域福祉計画』及び7つの区で『区地域福祉計画』を策定しました。

地域福祉計画は、それぞれの生活の拠点である地域において、共に生きるまちづくりの精神を発揮して、市民と行政がともに地域社会の生活課題の解決に取り組むことにより、誰もが安心していきいきと健やかに暮らせるような地域社会をつくることを目的としています。

また、“地域福祉”とは、こうした地域社会をつくりあげていくための市民や行政の取り組みと言えます。

問12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。(1つに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 市の計画、区の計画の両方を知っている2. 区の計画は知らないが、市の計画は知っている3. 市の計画は知らないが、区の計画は知っている4. 市の計画も区の計画も知らない (→問13へ進む) |
|---|

《問12-1は、問12で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問12-1 計画は何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 市政だより | 6. 交流会・ワークショップ |
| 2. 市や区のホームページ | 7. シンポジウム |
| 3. チラシ・パンフレット | 8. 講演・講習会 |
| 4. 市や区の計画での取り組みに参加した | 9. ロコミ(友人・知人や近隣の方からの) |
| 5. 団体等の会合 | 10. その他() |

【あなたがお住まいの地域についておたずねします】

[問13以降は全員の方がお答えください]

問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 両隣 |
| 2. 向こう三軒両隣程度 |
| 3. 同じ集合住宅(アパート、マンションなど) |
| 4. 歩いて5分(およそ100m)以内程度 |
| 5. 歩いて10分(およそ200m)以内程度 |
| 6. その他() |

問14 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 家族のように親しくつきあっている | 4. あいさつをする程度 |
| 2. 家に行き来したり、親しく話をする | 5. ほとんどつきあいが無い |
| 3. ときどき話をする程度 | 6. その他() |

問15 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. 地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ |
| 2. いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい |
| 3. 困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない |
| 4. 地域での助け合いは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ |
| 5. 地域との交流より、気の合った仲間やグループで交流し、その中で助け合えばよい |
| 6. 困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日ごろの交流は必要ない |
| 7. その他() |

問16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 加入している | (→ 問17へ進む) |
| 2. 加入していたが、退会した・加入したことはない | (→ 問16-1へ進む) |

《問16-1は、問16で「2. 加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方におたずねします》

問16-1 現在加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 行事に参加できない |
| 2. きっかけがない |
| 3. 特に不便を感じない・必要性を感じない |
| 4. 集合住宅の管理組合に加入している |
| 5. 仕事、子育て、介護等が忙しくて時間がない |
| 6. 地域のつきあいがわずらわしい |
| 7. 会費に見合うメリットがない |
| 8. 加入の仕方がわからない |
| 9. 面倒だから |
| 10. 関心がない |
| 11. その他 () |

[問17以降は全員の方がお答えください]

問17 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1. 隣近所程度 | 4. 中学校区程度 | 7. それ以上 |
| 2. 町内会・自治会程度 | 5. お住まいの区内程度 | 8. その他 |
| 3. 小学校区程度 | 6. 川崎市内程度 | () |

問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する問題(ストレス、食育、生活習慣病など)
2. 高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)
3. 障害児・者に関する問題(地域生活支援、権利擁護、活動支援、障害に対する理解など)
4. 子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)
5. 地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)
6. 地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など)
7. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題
9. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題
10. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない(足りない)という問題
11. その他()
12. 特に問題だと感じていることはない(→ 問19へ進む)

《問18-1は、問18で「1」～「11」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問18-1 その問題は、具体的にどのようなことですか。事例などがあれば教えてください。

.....

[問19以降は全員の方がお答えください]

問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない
2. 介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない
3. 経済的に生活できるか不安である
4. 病気になったときに頼れる人が身近にいない
5. 子育てがうまくできるか不安である
6. その他()

問20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身近でいつでも相談できる場所があること
2. 保健や福祉のサービスの利用料が低額であること
3. 保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること
4. 緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること
5. 利用できる保健や福祉のサービスの種類がたくさんあること
6. 保健や福祉に関する情報を簡単に入手できること
7. 保健や福祉のサービスの質を評価した情報があること
8. その他 ()
9. 特に何も必要だとは思わない

問21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 同居している家族 | 8. 地域包括支援センター等専門相談機関 |
| 2. 友人・知人 | 9. 民生委員児童委員 |
| 3. 離れて暮らしている家族 | 10. 社会福祉協議会 |
| 4. 区役所地域みまもり支援センターの職員 | 11. 民間の相談機関(電話相談を含む) |
| 5. かかりつけの医療機関 | 12. インターネット |
| 6. 近所の人 | 13. その他 () |
| 7. 福祉施設やサービス提供事業所の職員 | 14. 相談する人はいるが、誰にも相談しない |
| | 15. 相談する人がいない |

問22 あなたには、友人と呼べる人がいますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. いる (→ 問22-1へ進む) | 2. いない (→ 問23へ進む) |
|--------------------|-------------------|

《問22-1、問22-2は、問22で「1. いる」とお答えの方におたずねします》

問22-1 何人くらいいますか。

人

問22-2 その中で、実際に会ったことのないインターネット上の友人はいますか。

(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

[問23以降は全員の方がお答えください]

問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 親 族 | 8. 区役所・市役所 |
| 2. 友人・知人 | 9. 地域の医療機関 |
| 3. 近所の人 | 10. ケアマネジャーやホームヘルパー等 |
| 4. 民生委員児童委員 | 11. その他() |
| 5. 社会福祉協議会 | 12. 誰もいない |
| 6. 地域の活動団体 | 13. 頼みたくない |
| 7. NPO等の民間団体 | |

問24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ | 8. 外出の付添い |
| 2. 趣味など世間話の相手 | 9. 災害時の手助け |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理 | 12. その他() |
| 6. ちょっとした買物 | 13. 特にない |
| 7. 子どもの預かり | |

問25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ | 8. 外出の付添い |
| 2. 趣味など世間話の相手 | 9. 災害時の手助け |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理 | 12. その他() |
| 6. ちょっとした買物 | 13. 特にない |
| 7. 子どもの預かり | |

問26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

1. すでに制度を利用している
2. おおむね制度について知っている
3. 言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない
4. 知らない

問27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。(1つに○)

1. 現在、在宅で療養している
2. 在宅で療養したいし、おそらく可能である
3. 在宅で療養したいが、おそらく不可能である
4. おそらく在宅で療養することは可能だがしたくない
5. おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない
6. その他 ()

問28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いませんか。(1つに○)

1. 意思表示の書面は必要であり、すでに作成している
2. 意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない
3. 意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている
4. 意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある
5. 意思表示の書面は必要ないし、家族で話し合う必要もない
6. すべて家族にまかせるので必要ない
7. すべて医療者や病院にまかせるので必要ない
8. その他 ()

問29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題と
なっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。(あてはま
るものすべてに○)

1. 経済的に困窮している(お金がない)こと
2. 福祉や見守りなど行政の対応が不十分なこと
3. 地域の見守り体制が弱体化してきたこと
4. 一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること
5. 本人が引きこもりがちな性格であること
6. 隣近所のつきあいが少なくなっていること
7. 家庭内のことに、他人が立ち入りにくいこと
8. 医療や介護が必要な高齢者が増加していること
9. その他()
10. 特に問題はない
11. わからない

問30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを
5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

1. 地域住民による声かけ、見守り
2. 新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有
3. 民生委員児童委員による訪問、見守り
4. 水道、ガス、電気の利用に関する情報共有
5. 消防・警察・ごみ収集等、公的機関による確認
6. 定期的な電話や傾聴訪問等の話し相手
7. 地域で気軽に集えるサロン活動
8. 地域包括支援センター等による生活実態の把握
9. 配食等生活支援サービスを活用した見守り
10. 本人からの危険危機の通報
11. 機器による緊急通報システム
12. 介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網
13. その他()
14. 特にない
15. わからない

《問31-2～問30-5 は、問31 で「14」とお答えの方におたずねします》

問31-2 あなたは、今後どのような活動なら参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 健康づくりに関する活動 | 8. お祭りやイベントに関する活動 |
| 2. 高齢者に関する活動 | 9. 地域安全に関する活動 |
| 3. 障害児・者に関する活動 | 10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動 |
| 4. 子育てに関する活動 | 11. 文化・芸術に関する活動 |
| 5. 医療に関する活動 | 12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動 |
| 6. 町内会・自治会に関する活動 | 13. その他() |
| 7. 社会福祉協議会に関する活動 | 14. 具体的にはわからない |

問31-3 その理由は何ですか。具体的にお書きください。

----- -----

問31-4 参加される場合、活動可能な日はどのくらいですか。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 週3回以上 | 3. 月2～3回 | 5. 月1回未満 |
| 2. 週1～2回 | 4. 月1回 | |

問31-5 参加される場合、活動可能な時間はどのくらいですか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 平日日中(10時～17時)2時間以内 | 5. 休日日中2時間以内 |
| 2. 平日日中4時間以内 | 6. 休日日中4時間以内 |
| 3. 平日日中6時間以内 | 7. 休日日中6時間以内 |
| 4. 平日夜間(17時～20時) | 8. 休日夜間(17時～20時) |

《問31-6～問31-7 は、問31 で「15」とお答えの方におたずねします》

問31-6 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 仕事や家事が忙しく時間がない | 8. 一度はじめると拘束されてしまう |
| 2. きっかけがつかめない | 9. 行政や事業者が行えばよい |
| 3. 身近に活動グループや仲間がいない(知らない) | 10. 人と接するのが苦手 |
| 4. 健康に自信がない | 11. 地域活動やボランティア活動はしたくない |
| 5. 家族や職場の理解が得られない | 12. その他() |
| 6. 興味を持てる活動がない | 13. 特に理由はない |
| 7. 育児や介護を必要とする家族がいる | |

問31-7 あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

1. 活動する時間ができれば	6. 興味を持てる活動があれば
2. きっかけがあれば	7. ボランティア活動に参加していることが評価されるようになれば
3. 身近に活動グループや仲間がいれば	8. その他()
4. 体力や健康に自信があれば	9. 地域活動やボランティア活動はしたくない
5. 家族や職場の理解が得られれば	

【保健・福祉に関することについておたずねします】

[問32以降は全員の方がお答えください]

問32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存知ですか。(ア～チの団体・施設等について1・2のいずれか1つに○)

ア. 社会福祉協議会	1. 知っている	2. 知らない
イ. 民生委員児童委員	1. 知っている	2. 知らない
ウ. 区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	1. 知っている	2. 知らない
エ. 地域包括支援センター	1. 知っている	2. 知らない
オ. 老人クラブ	1. 知っている	2. 知らない
カ. いきいきセンター(老人福祉センター)	1. 知っている	2. 知らない
キ. いこいの家(老人いこいの家)	1. 知っている	2. 知らない
ク. 障害者相談支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ケ. 地域療育センター	1. 知っている	2. 知らない
コ. 地域リハビリテーションセンター	1. 知っている	2. 知らない
サ. 聴覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
シ. 視覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
ス. 児童相談所	1. 知っている	2. 知らない
セ. 地域子育て支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ソ. こども文化センター	1. 知っている	2. 知らない
タ. 福祉パル(区社会福祉協議会)	1. 知っている	2. 知らない
チ. 総合福祉センター(エポックなかはら)	1. 知っている	2. 知らない

問33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存知ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 名前も活動内容も知っている | |
| 2. 名前を知っており、活動内容も少しは知っている | |
| 3. 名前は知っているが、活動内容は知らない | } (→問34へ進む) |
| 4. 名前も活動内容も知らない | |

《問33-1は、問33で「1」または「2」とお答えの方におたずねします》

問33-1 あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 在宅福祉サービスの充実 | 6. 住民懇談会等の小地域活動の促進 |
| 2. 子育て支援の充実 | 7. NPOやボランティアグループへの支援 |
| 3. ボランティア活動の促進 | 8. 福祉関係団体の活動支援 |
| 4. 各種福祉講座・教室の開催 | 9. その他() |
| 5. 身近な相談の場としての機能強化 | 10. 特にない |

[問34以降は全員の方がお答えください]

問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|----------------|
| 1. 市の広報 | 8. 町内会・自治会の回覧板 |
| 2. インターネットのホームページ | 9. 友人・知人 |
| 3. チラシ・パンフレット | 10. 学 校 |
| 4. 新聞・テレビ | 11. 近 隣 |
| 5. 民生委員児童委員 | 12. 団体等の広報紙等 |
| 6. 社会福祉協議会 | 13. その他() |
| 7. 区役所地域みまもり支援センター
(福祉事務所・保健所支所) | |

問35 あなたは、ふだんパソコンや携帯電話でインターネットにアクセスしたり、メールのやりとりをどのくらいしていますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 3. 週に1日程度 | 5. ほとんどない |
| 2. 週に2~3日程度 | 4. 月に数日程度 | |

【東日本大震災後の意識の変化についておたずねします】

問36 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災意識が高まった
2. 節電意識が高まった
3. 家族の絆の大切さを認識した
4. 地域の絆の大切さを認識した
5. 友人等との絆の大切さを認識した
6. 健康意識が高まった
7. 避難場所確保の必要性を感じた
8. 正しい情報を得ることの必要性を感じた
9. その他 ()
10. 特にない

問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災グッズの準備、食料や水の備蓄など
2. 建物の補強
3. 家具の固定
4. 停電時の対策
5. 緊急時における家族との連絡方法の確認
6. 近くの学校や公園などの避難場所の確認
7. 学校や勤め先からの帰宅ルートの確認
8. 子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む
9. 隣近所の人へのあいさつや声かけ
10. 地域で主体的に防災につながる活動を行った
11. 防災訓練への参加
12. ボランティア活動への参加
13. その他 ()
14. 特にない

問38 東日本大震災から8年が経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

1. 現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している
2. 震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている
3. 震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している
4. 震災直後も現在も、防災などへの備えを特に意識していない
5. その他 ()
6. わからない

問39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

1. 見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報共有・活用すべき
2. 見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報共有・活用してもよい
3. 見守りや防災・防犯のためであっても、個人情報共有・活用しないほうがよい
4. わからない

問40 あなたは次の情報のうち、『ふだんの見守り活動』のためだとしても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号 | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先 | 12. 病歴、身体の障害など |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先 | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス | 14. 介護保険の要介護度 |
| 5. 出生地 | 15. 福祉サービスの利用状況 |
| 6. 生年月日、年齢 | 16. 健康保険証の記号番号 |
| 7. 血液型 | 17. その他 () |
| 8. 顔写真などの画像 | 18. 特になし |
| 9. 家族構成 | 19. わからない |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 | |

問41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号 | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先 | 12. 病歴、身体の障害など |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先 | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス | 14. 介護保険の要介護度 |
| 5. 出生地 | 15. 福祉サービスの利用状況 |
| 6. 生年月日、年齢 | 16. 健康保険証の記号番号 |
| 7. 血液型 | 17. その他() |
| 8. 顔写真などの画像 | 18. 特にない |
| 9. 家族構成 | 19. わからない |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 | |

【今後の地域福祉の推進についておたずねします】

問42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 住民同士が自ら地域課題の把握やその解決方法を探るための話し合いの機会をつくること |
| 2. 地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと |
| 3. 地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること |
| 4. 地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること |
| 5. 家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと |
| 6. その他() |
| 7. 特に取り組むべきことはない |

問43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握 |
| 2. 行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり |
| 3. ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成 |
| 4. 福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示 |
| 5. サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実 |
| 6. ワークショップや地域交流会などによる地域の課題等を共有する場・機会の提供 |
| 7. 地域の自主的活動と行政サービスの連携強化 |
| 8. その他() |

問44 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座2. ワークショップやKJ法※など会議の方法や進め方が学べる講座3. 地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座4. アンケート調査や聞き取り調査などさまざまな調査技術が学べる講座5. 支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座6. 活動の中心となるリーダーとして身につけるべきことが学べる講座7. 障害者が困っていることを疑似体験を通して学べる講座8. 先進的な取り組み事例が学べる講座9. その他 ()10. 特になし |
|---|

※KJ法：データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて図解し、情報や課題を整理していく手法

問45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している2. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない3. 地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない4. 地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない5. 地域包括ケアシステムを聞いたことがない |
|---|

(→問 45-1 へ進む)

※「地域包括ケアシステム」とは…

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けるため、住まい、医療、介護、予防、福祉・生活支援が切れ目なく、一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組のことです。この取組を進めるには、市民や事業者、地域・ボランティア団体、行政など、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により、取り組むことが大切です。

《問45-1は、問45で「3」～「5」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問45-1 地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあたります。

このような行動を行っていますか。行っている場合、かっこ内にあなたが行っている取組等についてお書きください。

1. 定期的に行っている（	）
2. たまに行っている（	）
3. 行っていないが、機会があれば行いたい	
4. 行っていないし、関心もない	

問46 「地域包括ケアシステム」の取組等について、御意見があればお書きください。

問47 最後に、『川崎市地域福祉計画』または『区地域福祉計画』に対するご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

12月20日（金）までにお近くのポストに投函してください。

第5回川崎市地域福祉実態調査 結果概要 (中原区版)

令和2年3月発行

発行 川崎市

編集 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL 044-200-2626(直通) FAX 044-200-3926

E-mail 40keasui@city.kawasaki.jp
